







明台六年癸酉所著

an. S. John.  
1873.

明治六年癸酉新著

約翰傳福音者也

東國宇院城阿度留布保流都方前版摺屋藏活字

Japan. S. John.  
1873.

よそんのよろこびかとぐれとつまみのちまうめら

よもんのよろこびかとぐれとつまみのちうり

一節

第二章

そドのよかゝるのありかゝるのべがねととめふりまた

かゝるのべをあらね。そのへとくのべをドロボネととめふりまた。  
そんのうかゝるのをのべてあまれくうすてあまれくるのべこれを  
のべてなされば、うりとりふとす。 りのうかゝるのべのふり  
のうりとりふとんがんのひうり。 ひうりへくもみてるくもみへくもと  
ざまくば。

おとづれする人の名へよもん。かれきくりてひうりのくあふ  
あやうこりうくとそれとめとそんせらあむ。かれくかのひうり  
くかのひうりのくあふあやうこゑるの。ちどとひうりへどのく  
せんふあるんみてくものうり。かれせんよりほてせんハ

それとのてかまれこれどもせけんへこれが。<sup>ナ</sup>かれの毛<sup>ナ</sup>グ<sup>ナ</sup>ミ<sup>ナ</sup>ロ  
小<sup>ナ</sup>きあり<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>の毛<sup>ナ</sup>グ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>れをうけ<sup>ナ</sup>ば。<sup>ナ</sup>ゞ<sup>ナ</sup>それとうけや<sup>ナ</sup>てその名と  
えんざるん<sup>ナ</sup>が<sup>ナ</sup>ぶり<sup>ナ</sup>み<sup>ナ</sup>かひと<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>み<sup>ナ</sup>神<sup>ナ</sup>のゆ<sup>ナ</sup>め<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>る。<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>ト<sup>ナ</sup>ハ  
血<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>め<sup>ナ</sup>か<sup>ナ</sup>するよ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>べ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>のそ<sup>ナ</sup>ろ<sup>ナ</sup>ば<sup>ナ</sup>よう<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>  
あ<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>るに<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>ず<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>い<sup>ナ</sup>神<sup>ナ</sup>より<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>。<sup>ナ</sup>それか<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>ゆ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>が<sup>ナ</sup>り  
て<sup>ナ</sup>こ<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>ら<sup>ナ</sup>ふ<sup>ナ</sup>せ<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>へ<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>さ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>へ<sup>ナ</sup>天<sup>ナ</sup>父<sup>ナ</sup>ひ<sup>ナ</sup>ど<sup>ナ</sup>  
う<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>さ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>る<sup>ナ</sup>。

<sup>ナ</sup>五<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>せ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>ふ<sup>ナ</sup>も<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>こ<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>び<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>こ<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>ア<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>る<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>  
せ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>な<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>ぐ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>ら<sup>ナ</sup>下<sup>ナ</sup>さ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>て<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>こ<sup>ナ</sup>ぐ<sup>ナ</sup>さ<sup>ナ</sup>き<sup>ナ</sup>ふ<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>ー<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>  
の<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>さ<sup>ナ</sup>き<sup>ナ</sup>ぐ<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>べ<sup>ナ</sup>す<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>ら<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>せ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>き<sup>ナ</sup>。<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>  
さ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>じ<sup>ナ</sup>て<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>こ<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>け<sup>ナ</sup>。<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>へ<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>。

カ<sup>ナ</sup>フ<sup>ナ</sup>ハ<sup>ナ</sup>も<sup>ナ</sup>せ<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>う<sup>ナ</sup>さ<sup>ナ</sup>げ<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>き<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>人<sup>ナ</sup>々<sup>ナ</sup>そ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>モ<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>よ<sup>ナ</sup>じ<sup>ナ</sup>。<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>ぎ<sup>ナ</sup>

さうするよしてあらうあてこれみまうけるせんへせんのとある。モロ

ナセ

リふへもせようさづれそせんとすとどんそくれそとよを。りふび  
んハ能とるゆあふびどううまぐらのゆせとちくのふとくにある  
のゆせとおきくふのがゆひける。

ナハ

よもんのよやうこかのびとよもよるされんよりきうづくまときゆの  
ふととやうてよもんよとひてりとくなんぢとねぞや。よもんハうけびそ  
ナ

ナ一

かくさびりまーうねびそりとくにれんゆせとよのうび。りとくあうらべ

ナ二

うほどりそやくらくかへ。りとくさゑそるゆのくじくわらば。りとく

ナ三

さんぢくれそやめくそよれふそつうそめのゆんとうそせびーなん

ナ四

ぢみがくふゆかとりかや。りとくゆせのれちよのかとよたふゆのくじく  
ナ五

ナ六

のゆせとゆせにせうとよたふゆのくじくとどりうり。つうなさむ

ナ七

ハモヤヌのいださまあるののかいだせんばうんをあらふねへや。よそん  
のりたくされまぐとめくてのいふれへやるへださんぢとグさくふくらみの  
ありかんぢとあらざるの。ののちんこグのらえさくうてあううゑてこぶ  
さむえりほてするたちその方のせくとくふも已れあくべざるのなり。  
あるとぐくよゑれどんの川わくむしのべあをらきみたちよそん  
あふれのあるとくろヌヨアリトウ。

つぐ日よそんのふそかひきよつてことアノル。よあたらしく神のこひやド  
せそんのつみとのぞくるのとみよ。已れログのらえせくへりとログをまかりま  
そあゆどそめくとこれにせきじととりたゆるのへよあらそん  
なら。已れのとようこゑをあらびとびとまくとひそらゑよあゆとたぬグトやヌ  
まくとて三びとめくとめくよあれ。よそんきよあやうこそそりたく已れ

聖詔をきのじく天よりくうてかれれうへよとどまると見えり。已れ  
三十三

かくこれよりよしとてかくこれよりよしとてかくこれよりよしとてかくこれ  
かくこれよりよしとてかくこれよりよしとてかくこれよりよしとてかくこれ  
かくこれよりよしとてかくこれよりよしとてかくこれよりよしとてかくこれ

三十九

三十三

聖詔をきのじく天より下りてかれれうへよとどまると云ふ。已れ

のとようかれをもふべかられと云ふとのてかくふれへもふつうを

ののこれかづてりそくさんぢ聖詔をりぎまのせんのうへよも

とどまると云ふとあるののくとくをうち聖詔をりくてやくふれへも

ののうり。ゆへにこれゑそもううもその詔のむすびとくると云ふうこそ。

三十五 三十四

きくつぐ日よそんあくうので一こともかくして。ゑそのあゆみゆくと

見てきあらちりとく詔のこひやドと云ふ。あくうので一その工をと

まきてゑそよあくうぶ。ゑそゑとめぐらしてこれよげあくうひまくると

三十六 三十七

ゑそりひのくそんぢらさゆとくのとく。りそくらがりびくふをみゆふ

や。それらがとくううーてりべまきすより。りひのくそんぢうさくうて

えく。つひよきくうそをせとどりと云ふ。ときせとえさるうり

三十八

四十一

三十九

四十一

とおばかの口ともよむ。そのよもんとまのとあうとてゑそとよもぐふ  
のふくのうちへんをめんべてろぐ四十一 さやうざいあんでせやうり。かれ  
まがきやうざいあんとくがねつねとりにくひがくハめをやうりて  
りぐれ四十二 られをとくづねつねりくれをとくのばとせやつねるのの  
あり。つひふこねとくづくとゑそとまつてゑ。ゑそこのとてりぐれ  
をくうんぢりほよあぐむ出とあんまくふけいへゆととあるうりて  
りぐれべてろ。べてろとくづのりふうり。

四十四

四十五

四十六

つぐ日ゑそのがやくぬゆんとあるとてきひぞびりよのとてりひのとく  
かれえあくびよ。それひぞびりへべさいざのんのんでせやとべてろとかうド  
むすり。ひぞびりへゑとあゑとめきてりにくむせのせらやくよかひて  
さきうのどもかねあくとくののへされらせぞぶこねえ

四十七

のひくうきまちあざきのんよせゐのむせとゑそより。まくゑの

まくありひりびりへるよあをとめかでしとくもせのやぶ等よちひて

さきものどもかねあるはとくののへこれらをぞふこねえ

四十七

わひくりおおむらかざきのんよせゐのむせとゑそより。ゑふなゑの

ひなくなざれよりよくよきとりがるや。ひモびりのりにくまくりゑそ。

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

ゑそななゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑうゑ

四十九

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

まほきつるみんぐんのむすびのうへりのやるとさんと。

第三章

一節

ごく三 むらがそこのヶあみてそんまのあらまひのそそその母  
かれよどりく。ゑそもでしをもまたそのあらまひかのくとさる。

四

さけみやーきとそそそのもくこれよどりくかれさけほ。ゑそとのひ  
ゆゑくとあごはれとうんぢとうんそのがくんや。ヨグトモリモギリモギリモギリ。

五 母ハももちどこどもよりよりそりそくかくよしかれさんぢよりひくわのふ

六 ハニキをせふ。

七 よくぶものまれいあるさまのとどりかれよあそりあみのミヅグの六り

ありあいのくニニかけとりまくるわどなり。ゑそのりひひがたくミヅグをゆくそ

かれよみくせよつあふこれをくらまでもミヒく。まくじひひがたくりまくそ

りくしてあるまくつらまくふとれよつあふこれをねくる。ミヅグさけよんぢ

あるまくつらまくふこれとあまくとてりぐよりとあらばとくミヅグとくむある

かぬよみくせよつるふこれとくに巻きまくらす  
りべてあるまくづくまきれよつるふこれをねる。九三六さけよへんぞ

あるまくづくまへこれとくにまくとてりべくよりとあらばとくにまぐとくにまくも  
とくにまくこれとあるまくまくづくまくむとよんでりそくちくをんまく  
よくさけとそくへきやくのくにまくづくのべくまくづくのべくとてりべくとくに  
きんぢよをさけとりまくまくとくべくよるや。それゑそのがくのくあくまくそ  
そドめでまくづくまくづくがくとくとくをくうあそそさく多くあらそく  
あらそくとくでーどもかれとゑじく。

ナニそれくとゑそへ母きやうざくでーどもとともよくへまんくんゆくにまくひで  
かきくをかくと日かわくじだ。ミナよくどものきぎこゆるせらちくうりそ  
ゑそのゑまくされんゆのぎりまくひで。てらよきくへてうへひくとくと  
うるゆのちよびざんとくぐるゆのぎまくとアヤのくべ。ナフヨロとのくそあらそ  
そづくでそれくとくひまくづくひくとくとくのそとまくりべ

爲ひて せんと くる やの じもの うねと かこざきて その ざいと なまむ。  
ナ六  
をと うる わの じも みりそりひのく めろ その じのと とり さうそ  
ナ七  
せぐ ちくの みや と あきらめ みや と うれ。 で、 じも 連 えんぢ  
グミ やの ひらめ かれ と つらへ うり とかく どうを かがへ うり。 よく じのの  
そぐへ うり あく あく あく これ と さを はさん の めぐらしき ばあと  
ナ九  
けれ と うみせ や。 エそ の りひ あく あく あんぢ じて うと す され よ けれ  
ナ十  
三日 え それ と そらん。 よく じの じの じを じて うと す され よ 四十六  
年 えんぢ へ 三日 え それ と そらを や。 よく エそ へ かれ の タの てらと  
ナ三  
さへ おちひ あく。 ゆ多 え かき ふあく わの よう ひき ぐる の うえ  
ナ四  
で、 あく え まの てらと かがへ うり て 連 と エそ さあ の りひ あく

と そらと あんぢ うり。

で、いきましむのことをおもへりて往と來をさむのじとおなむ  
ことをあんぢやう。

エその エるされん エのくそ あきよ あざき ある セラ エン その エミキ  
エミキの ふきを なると こそ その名と あんぢる めの カナ。 エその ん  
と ちる ゆゑ エミキの もと とかれら エスのまば。 二四五 ちこんの うち ふきに むるを  
ある ゆゑ エミキの もと とかれら もんの エと あやう こむる と の らへず。

一節

第三章 ふり やすの ん わり 名へ 小ニ て も。 よく せめの つかを せり あり。 二四 神  
エそ さゆ つまて ひだく らび これ むの むく 神 より きく りー ああ やう  
くる と ちる けー めの むの かと あふ そ そ そ の てん ぢと 神 の く ま け エ や  
せん ば と ね も よく こ れ を か き あ ふ と か す。 三 エそ の こ そ て て ひ あ ま く せ  
ま と だ く え る い だ え つ だ ん ひ ま く う ま れ る か あ い せん ば が 神 の ん ふ と あ る  
と く て あ だ。 四 小 こ で も ひ だく く ん ま で え か い く う な ん そ ま く う ま く  
る と え ん あ え よ く あ か い が そ く の ま う え い う ま れ る や。 五 エそ の ひ

多くこれ生とおつよみんぢゑつぶんんまかて聖詔ゆてうちれる  
かわらせんべ詔のくあくをくむことあくをだ。かくよううまれへゆくなり。  
聖詔詔よりうまれへきく<sup>ナ</sup>きなり。これ。えんぢくかあくずき  
うまれとりふへるんぢめぐらともりとうれ。かせりだくもかくすれ  
えんぢそのこととさけざむりびくよをきくりりびくよゆくこと  
をくじくを聖詔詔よりうまれへきくかくのじ。

かこでおりとくこのとりふよみてよくうるや。そそのこくてりくみく  
えんぢいからゑぞグひどくのちもやううかりまごこれとくじくや。これまこと  
くらええんぢ小はげんこれあるところへこねとりひみるところへこれを  
あやうこせあうゑてえんぢらこれうがるやうことをうけだ。これはくる  
とりバえんぢらえんぜりさんや天くるとりバえんぢらのよく  
えんぜんや。これもりまが天よのやるゆのあくべて天よりくだりて

あやうこをあくうそそえんぢらひれりくをやうことうけいひれは  
とりへばさんぢらえんぜんぢりえんや天よりとりへばさんぢらのよ

えんせんや。これもりまじ天よりのやるのあふだき天よりくだりて  
さるののこもあむらみんぐんのゆまことかく天よりのの。二十三  
せのれちえのくとくびとのぐるグどくみんぐんのゆまことすくかくらだ  
あくわげれて。かくをとねとえんぜんのへりうたびしてかぎりゆき  
のうとえくゑぬぐふ。

けびくおせんとかのやどめーてそのひとやうまくのゆまこと  
からめてかくとこれとえんぜんのやうたびをかぎりゆきりのち  
とえせゑあぐたり。かくおせのゆまことせんへほくをせんと  
おぎざざわかるよのいだりまーせんこれをゆみてあくをぶるグくらうり。二十六  
これとえんぜんのへおぎざざわせられずえんぜんのへあくら  
をぐくよおぎざざわせらるそのおせのひとりうまべのゆまことの名とえん

せめぐりくるゆゑなり。それそのとゞざざあむるへそれなむひくりせん  
へまきなりてあらうそんこらふをきとゆくあるとひくりようそぎ  
こうそそのあくわきなるとまくしてなり。よみてかくそめーきとうモ  
ののハひくりときらふてあらうそそもくせふつうべそのそくせらふれん  
エをあそる。二十一きどとくののハひくりゆほくゆうてその一くみ  
ゆふさせふれてすきなら能みてなまきなるを。

そののちゑそとでーどもとよてやのちくへ小りくりてかまえのそそ  
これとどもよすまひてあらふねーども。二十三きどよそんのらふれめる  
といはんぬめりされんよちくよそそそそとくうアミゲカウーんきく  
てあらふれめる。二十四ときよそんらうやよりまざりまづれざりく  
よそんのでーどもとよとどもとされぬよちくよかくしてひやうをんぢれく。

二十六よそんよづきそりそくらじよれくんのわくよそんぢとどもよそく

てあくわへせむる とまふよそんらう もよりまぎりまくれざり と  
二十九

よそんので 一 どもとよもとされぬよそんよかひをひやうをんかこれへう。

三十六

よそんよつきそりなくらば よれそんの わくよそんぢとともよそそん  
ぢも そくよそやうこゝるのへと かみかきりのあらふれへもそ  
うへて 三かとれよつく。 よそんそそてりなく天よりさくするよめうばん

三十七

べんかくもうけるとめうだ。 がんぢらみびく されんれもとよめうば  
りま そのさきぶくにてはうそするとりへくるとそやうこせべ。 おふよ  
あるものへもみせり さう さう まのまも そんてそれときのそそ  
むとの こ多の ゆへ そよだようと。 お じう とようび まくへり。 かくへ

三十八

かくへば そるにれへかくへぞ げんぐ おくかく。

三十九

えより そるのけへのうへの えはよりのののえは こるりふそそろ  
へそへは こり。 天より そるのへのうへ えへり。 かくち みづく  
お お く そそろとそやうこゝて あらうそそんのそそやうそそうけだ。

三十三

そのあやうことうけり。のハ猪のあことするとあうりんみてあやうこと。  
も。猪のやらくるのハ猪のことをのがるか。テ猪取を猪とたまふ  
へぢやうぎみてせば。天父ミナヘむすとおへーむんめとそなまえゆく。  
ミナヘむすとあんざるのへかぎりうきのりのちありむほととあんざざるの  
へりのちとえびりは猪のゆゑりそなうへヌとどまる。

第四章

一節

ねーふよぞもぞものゑそんとてーようーわぶれへまると  
よそんようかなかるとさくととあれば。もうきどもゑそ三ばくのらふ  
れべーあうだでーどものみを。りまーよてやとおあれてあこごびかやく  
えゆく。三らかあぶだ五こまぞやようそ。こまぞやのへりのあうよりぐり  
て名へもかれぞやこべのきぐむむとよせふよあくへくるちくよちく。  
そくふやこべのあがこり。ゑそうびゆきよつうれるふよそてゆがこよざく

ときへぐくあらひ。さまぞやのむんえあくとみがとくあふさく。でー  
凡

て名へもかれをやこへのきくせふよかへるちくよぢ  
そかやこべのゆぐとあり。こそ「ゆきよづれ」ふよくてゆぐとよざく

とおこひぐれあらひる。さまやのわんまわくとみぐとくわよさくる。で  
さもあらよかてとかわるゆきくるようてこそわんばかりくわくく  
されよのませよ。さまやのわんうぢりにくわくよくとんこれへ  
りまーさまやのわんえりくわくとのみのとこわよのとむるやけー  
よくんこまやんととくわらせるとおー。こそこくへてりくわくく  
さんぢ能くまよのすくさんぢふされよのませよとりよのこれを  
とあればするわらわんぢこねよのとむてかどもすくさんぢふりきるみぐ  
とくとく。わんうぢりくくわんあくくくがくてもくみののう  
ゑをみぐとすくあくーあくとよてかのりきるみぐと見るや。これう  
せんぞやこべにれよこのゆぐとゆぐりくうわくーかどとゑざもと  
ざくうをとみがくきよのゆくわくわこれよりわらひうんや。そその

りひ落とくその三ツとのあたかまじかとく。さうにうるおもろ  
の三ツとのあとのへりがもかとうべきくにうかきよめふそろの三ツ  
かとうべきうら又ちのそりだみよりてこきひががきりおまのりのちよ  
かとうべ。かんがりひとくまことに三ツとれとこねえゆみてこれとをそ  
かくうみびきとへまくることかくしめとくへよ。ゑそのりひ落とく  
ゆきてうんぢがわらととよむくされよ。かんうぐりとくにれわらとす  
ゑそのりひのとくうんぢがわるとくとくとくへぜうり。けいへうんぢわら  
わらのわらとありまへりあわるとくののへなんぢがわらとよめふ  
それうんぢがりよどくまことなり。せんうぐりひとくにうかきよめふ  
まくわらわらとくあるののうり。せんうぐせんをばやまくねがまくへ  
くうくうんぢがりとくねがまくわらとくへまくふゑるされんよあり。

をおなちせきあるものあり。此をらがせんをばやまみねがみとへ  
「うへんぢりとくねがみとへまくふゑるされんより。

二十一

ゑそのりひぬとくちんぬ正れよあんぜよとせりへりてうんぢト天  
父とあへさんとあることのやまえねへてものうべゑるされんふものうべ。  
二十二

かんぢらへとへあるとくとあうべ正きらへとへあるとくとあるけす  
二十三

すふとよこどもようりび。さぶとせりへりてりまものりまとのむがみ  
二十四

あへあるのをも天父とあへさんとあるとおきにきのそおひとと  
めうてをけだ天父へんのちのきとあへするへかくのじくせんゑと  
あふせ。能へとあへらとまうりこれとあへあるのへかくせんゑと  
二十五

めうてきとをめうてあへも。かんゑがりとく正れめをやきくとある  
かきまくねがとくみみ正れらにはんめをやけだられせどとゆ。  
二十六

ゑそのりひぬとく正れ今かんぢとめのりよのへそれうり。そのう  
二十七

でしとむかうりてゑそかんきとのりあひ工とめべらとよく

これもさうどくのどらでそもそもへなんをむんとめのりよやとせんば。  
〔三十九〕  
かんえへんごとかとよおきてもうよゆきてんふくふをそりてく  
〔四〇〕  
きくりてへチんとアモ、めどくりよがねとあふとくろへかれとぐ  
〔四一〕  
くされぶりかくりこきんれをとふのびぐるや。もうくもうようりぐく  
ゑそくつ。

〔四二〕

そのめひづでーざもこたくへらがそとくー猪へよとりよ。ゑそ

〔四三〕

りひづゑくこれうんぢふあふぐるくらふべきかてあり。でーざもめひくぐり

てりたくのかまとあくくせーむるよめちきくらゐのありくるや。  
〔四四〕

〔四五〕

ゑそりひづゑくこれとつうをくのくわゆあくぐれてもううそそ

あぐととおじるへすゑむらこぐかてうり。うんぢふあくうを四月又そ

ゑううそそからむきりくるとひなだくんやゑよかみ已れうんぢふかくん

目をあげてなうとアモ、あくよおゆくゑそかるべ。かるのひようぎん  
とうなこまどつしーいづうのまつうかつうかつうかつう

月をあげておうとアレ、おどよびぬくゑてかるべ。かるのひようぎん  
とうけそとつんでかぎりゆきりのちふぢとゑ／＼よくののかるのを  
あてかみドくたのあま／＼む。エレダアリシヒトリヘキヒトリヘカル  
まともえより。これうんぢ／＼ソリモジラウセザルとくろとかるよやるべ  
ふらじてうんぢラスそのらうよひきつぎ／＼。

三十九

ミナフ

そのあらよどりさまやんかんさグヌそのどくよりコグヲモとくろへ  
トぐく己れかづげ／＼とおやうこまるかようてねやくかゑをえん  
せう。ゆくよはさあやんゑそよつくとをともよどまりほくよと  
こゑまうから二つ目のひきよめられてとまへ／＼。そのとゑとまく  
てあうゑてかゑをえんぢるのひく／＼かや。そのやんさみかくり  
てりをくりまさればうんぢグエ念ふよろてえんぢるふのふだりま／＼ミダク

とさくてかきあつてふんれどとせんとせんねーとある。

四十三

二日のうちかとうとうてがくゆきあふ。けでゑそみぐくさきある

四十四

のこまやうみやくとくふとあれどともやうこもく。がくくみりくわぶ  
そのむくゑそせら夕のときゑるされんみやうてかくみとくの  
ととえらゆへとれとうけきドモリてとうてがくのんもせら夕  
まゆるみゆきう。

四十五

ゑそ又がくのうあみぐとさけふ清きゝるところふりくをあふ。  
そくづの下ゆゑてそのむくとくべゑちんみやまくーう。ゑそ  
よてやよりがくみりくりぬくとさくてこれみづきてくじてそ  
むくとくわーくまへよとすげーきくふみうんとも。ゑそりくぬく  
きんぢくめぐらきゑーてんぢく正とゑびんばえんせば。つこの下

四十六

四十七

四十八

四十九

りんぢくめぐらきゑーてんぢく正とゑびんばえんせば。つこの下

うんぢやめだらきもるへてんぢて工とアシダルバ  
えんぜだ。つしの下

四十九

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

りたゞく口づけでぬるさきふねへへりてゆへよ。ゑそのりひぬまく  
いざゆをされよがんぢげむせんりゆく。そりんゑそのりひぬまくとゑを  
えんぜてあらうみてゆせんりゆく。へるときももかどことどもかほえゆを  
ゆみてづげてりたゞくうんぢのゆまくりゆく。ゑうんのときふうやうもド  
きりくるや。りたゞくさのすりやうのとを猫らびやうありぞきく。ちくの  
そのとをゑそそんぢげむせんりゆくトりひぬまのときふかみとさとね  
すみたらかのとむへ家もみふえんべ。ゑそのよてやううがをくヌキある  
とをとねとおとくのとくとこれそニ番めうり。

第十五

一節

そののちよこどものせう夕ありゑそそのゑるされんよのやり  
ぬひて。ゑるされんかおりてひやうりらぶのちくきふりけありさらへ  
ことをみてべてそどとりよりナハあらのげんくさんあり。うちふ血を

おもふめんちんをつるぎるのをもあせるとおもひおわじてみ  
のうぶくとす。けで一 天のつるひありあるときりけりと  
うぶくをみびうぶくしてのち一 番うちゆりのうみのやまひも  
おもかぢり多。<sup>四</sup> とくよんのうてやまひとみあひと三十八年。<sup>五</sup> そ  
かほぐあせくるとこそやまひおもひひじうあることをきりてひ  
あがなくなんぢうとくとくまひや。おもひのりたくおもひみびうぶく  
のせきおれとくまけとりけむ念のう一 けいさくするよかよんでん  
にぬよさきじらてぐる。そそのりひおもひくねきてねまひをとりて  
ゆけよ。<sup>九</sup> そんくらまひくふり多てねまひをとりてあらうしてゆく。  
けりまへりとゆき。

よこぎもり多くるのひかりてりまへりまひふれまひとくまひとよ

おもひおもひだ。こくとりまへひれとり多くるのひまひとくまひと  
おもひだこめなよとくまへりま。そくまへりまひとくまひとよ

此日の事

よしをより多くするのより多くなりより多く日ねどことみるよとよら

さふあらば。こぐれたり多くされとり多くものにまよはねどこととりて

あうそめゆけよとりひつたり。とひそりたくさんちふねどことうて

ゆけとりひづるのとれどや。そのり多くものとれどとあらばかのとくろ

人あらかそめあうそめゑそありぞまこととりひづるかよろてさり。

のち小ゑそとくそとらぬのまことひのたく見えかかさんぢり多く

とをきくりまことひとあうそとがられあらかへさらぬのとくえ

のとんじと。その人ゆきさりそよごもよかのとくわそものゑそ

くることづげ。よしをもゑそりよく日ぬかひてこまそかくまく小よ

てあまうおひそこまそとくさんとかくせ。ゑそりひぬくまくまでこぐ

ちくしがとあるにまくスードをもる。よしをもりくとくまそこうさん

とくまよみてうだりよくとくまそのみふあらばりまくとく能とくのま

グ父ナニよりとりひきのを猪シロとひきてうなぎ。

又そりへ猪シロとくコレナニとおつよさんぢシとつげんむせみの父ナニこれナニをある  
エナニと元ハタケ出ハタケんばハタケミハタケぐらハタケとくうあハタケもせだハタケとハタケ父ナニのあるところのハタケも  
きてハタケとせん。ばハタケー父ナニおハタケとハタケーおハタケきハタケグハタケきハタケるところハタケとハタケぐ  
くこれハタケヌハタケあハタケをハタケてハタケあハタケよハタケかハタケわハタケる。よハタケざハタケとかハタケきハタケよハタケあハタケーとハタケるハタケんハタケぢハタケ  
とハタケおハタケのやハタケーキハタケーめんハタケと。ちくハタケるハタケものとハタケおハタケいてハタケりハタケきハタケぐハタケーおハタケグハタケいハタケく  
おハタケくハタケもハタケかハタケの見ハタケぐハタケりハタケあるハタケところのハタケのとハタケりハタケきハタケぐハタケくハタケとハタケきてハタケあり。父ナニ  
これハタケもハタケてハタケさハタケだハタケてハタケてハタケてハタケてハタケてハタケむハタケせハタケとハタケかハタケげハタケて。あハタケくハタケ、おハタケせハタケと  
うやまハタケとハタケちくハタケとハタケうやまハタケよハタケぐハタケごハタケとハタケくハタケよハタケせハタケーか。むハタケせハタケとハタケうやまハタケたハタケぐハタケるハタケのハタケ  
あハタケあハタケらハタケおハタケせハタケとハタケはハタケくハタケるハタケのハタケ父ナニとハタケうやまハタケだハタケ。

四十四  
されハタケもハタケことハタケおハタケよハタケんハタケぢハタケトハタケげんハタケこハタケとハタケあハタケうハタケとハタケてハタケおハタケれハタケとハタケ

ほハタケうハタケのハタケとハタケえハタケんハタケせハタケかハタケぎハタケりハタケかハタケきハタケりハタケのハタケわハタケとハタケえハタケてハタケおハタケうハタケとハタケてハタケおハタケれハタケとハタケ

され あこと おふくろんぢくふづげん ひが ことを まのと あらう みて されを

はうえにのと あんせばかぎり がきりのうと えそ とづ さざわよ きあいだ  
りまー あよ よりりきる から。され あこと おふくろんぢくふづん  
はうんぢくふづん てりま かわり あよ の どもと おの こゑと

二十六

せんと これと せん のへ かわいだりきる。父のと ぐうらふりのうある  
せんと せん おもかのき ぐうらふりのうある こと くまくへきくあらり。  
二十七

かくかま ふりきわひ と くまみてのと くまこと あらん その ふんげんの

二十八

おまと くま ふりきわひ と くまみてのと くまこと あらん その ふんげんの  
よふそ まく ひくる まそ はう うちふざる の えそ ふんげんの おまと

二十九

こゑと あらん。ひざんと ひざんと おののへ おののへ おののへ おののへ  
のひりまー めの ゆらぐよ。され みだくふ おふもよく おもと なー いじ まく と うり くだく こぐ こぐ

とぎりよりよろて正れぬきぐそろとのどめびりまへ父正れをつみ

のくそろとのみ。正れぬきぐそろぬあやうこあねあやうこへ

ミナ一

あねあらきことあねだ。ぶ又正ぐそろぬあやうこあるのめり正れも  
ミナニ

ミナニ

その正ぐそろぬあやうこあるのあやうこまことへるとある。うんぢト人を

ミナ三

ややそよなんヌハヘめくりかれまとの正らふあやうこあひり。正れ  
ミナ四

あやうことんうりぬとめびさざんぢとめくらこやみせ工とりの。正

ミナ五

よなんりまへのへてめびとめびさざんぢとめくらそのひくうとくのあひ

ミナ六

こり。あくまでも正れよなんよりかわひあるあやうこののめりけで父

ミナ七

の正れぬあやうをああるヌハまへる正き父の正れをつまへこりと

ミナ八

あやうこと。正れとつまへくるの父まへ正ぐそろぬあやうこへたり

がんぢとめびそのこ多とりめびさざんぢとめびそのをざへとりまへだ。その

とめびりうんぢとめびこうにぞんせばうんぢとめびうんぢとめび  
のめびとめびせざるぬよろてびり。

もやうこそ。これをうなぐるの父も。ヨゲトタヌもやうこへたり  
かんぢりもそのことをとりまざさうばそのちぢてとりまざアバ。そ

三十九

エヒヒリ おんぢり がこうに ぞんせば おんぢり かまグ うなぐへ とこう  
のめのと おんせざる ようそなり。

三十九  
おんぢら 猪 ども ときせよ よそ おんぢり そのうち又 かぎり おまの  
りのちあると あゆ。猪 ども すこやか おやうこ あるの めの これ なり。

四十一  
おんぢり これ よつまそ めの てりの ちと えんと せんじと わくせば。これ  
四十二  
うやまとると ふううけ。ふぐ これ おんぢり がうらふ 神めぐみ るき ことを  
くる。四十三  
おれ父の名と のと さくら うり おんぢり これ とうけ まが ふぐ  
ゆく 人の き が名と のと さくらんと そおんぢり まおむら こゑを  
うけ まが ふんと そ。おんぢり あひ くがひ ふう やまとると うけ て ま 神  
四十四  
よりの うやまとと のと おざる のへ もよく あんせんや。これ おん  
ぢり と 父 おううへさんと おもと あゆと うれ おんぢり とうづ

四

あるのへとおもむらうんぢゞぐとのむきのむせなり。うんぢゞむせと

そんせばかまうびこれとそんドセギーか毛。これをゆびばてかきより。  
四十七

かきぐくきよるとそんせざるときへりくふゑてひが工をとそんせんや。

一節

## 第六章

そののちゑそのぐくのうとこくつ移すまおむらてべややの

うえなり。あわひゆるむうぐりかのせんのびやうるやのうへ小かくそまる

そまろのてしとエとアとおもむらうとくよゑくぶ。ゑそやまふのやり

てかまゆでーどもととのえざー移す。ときかよくぞののむきそこの

五

四

せうくちうかる。ゑそ目とあげてあわひゆるむうぐりむのまゆくと

そそひモペイよりよりひもひもくにれりぐくよりのむとうみてこまく

スノホトヒるや。ゆそそりるみとまさんとあるとありそしへかきと

そくわゆぐくもよそれとひひほみ。ひモペイグリとくニナのんめのむち

それひぐくもくとおもむくとく。でーのーそん  
のまくとくレジとろがまくつぶへかじどとやがひどく。そふぢうド

九

えふをうへむや。のどをうりうふとおさんとあるとありて かまと  
そろがくとあふそれとりひき。ひそびいぐりたゞ = + わんめのわら  
これうぐかのくをとしきとどるみあまかくへいだ。でーのーす  
りまーをめんべてろグモヤうざひのんでモヤガりたゞ。そふぞうドモ  
おほきのわらありとまきうと一ツと二ツと三ツと四ツと五ツもこれかど  
かわきのんよるんのようよくらや。ゑそりひがくそのんとざせー  
めくそとさうへまきうげるとのりぎかるんうだくらぐみチ。ゑそ  
のうとさうてりとくでーとよせけめくでーもあひぎかるのふ  
わくうともまくあうりかのくねがくなど。モジムのくあじふもゑそ  
でーふりきそりひがくそそののまつのがけとひうひてうふもまくう  
とあれ。つひよめうくくふとそろのわらのわらおまのわらとわら  
なけとひうひて 十ニ かくふみ。

そのんゑそとくそろのてんじこととアヒてりとくこれ まとふかのせ

くふえうあふだまへんとりひへりのうり。ゑそかきふぐきこりてゑ  
てかのまととうてまとゑさんとゑるとありてきさりてひとりやまふ  
ゆきあふ。<sup>十六</sup> ゆふりりのひでーどもかへんゆゆきて。ゑねえのやりうみふ  
こくうてかふむんえのぞむをぞみくれるゑそりまづきまづだ。かせ  
かわらふくよよてゑあがる。でーどもとおづ七八やまこをゆく  
のちゑそうふゆんでゑねえぢうよるとゑそあううゑてかそる。ゑそ  
のりひひきくこれうりおそくとゑくき。かきふつゐふようこんでこれを  
うけキドナリてゑねえのまる。ゑやへきらまちはぞむちくゐのまへえあり。  
<sup>二十三</sup> ゃうふらうまのかーこのまえまのままでーどもののがひどもの  
わうえへづのこぢねうーゑそもでーとまもよこぢねえのがばりま  
でーざのとひくうゆきくるをゑる。<sup>二十三</sup> わうえどもばくアこぢねざものそ  
てべやまちまちゑそありぐくーてめろくーのりとくらふのとくろ

二十四

やうえへざるのこぎねうゑそもでーとどもよこぎねえのやうびりま  
でーをめどひよりゆきくると。あらまどもばくつこぎねどもあそ

二十三

てべやまきうちゑそありぐくーてのうくのりとくらゑのとどう  
みちづくのちきよりきて。のうくゑそもでーどもかきえ  
あることアビカレトモあねえのやりてケアヒンよりみてゑそと  
さがぬ。二十四五うみのかーあざううこきよのふときよりくらびきんじき  
そくからうみのへるや。ゑそりひきとくにれきとおふよんぢ  
ユアゲンなんぢくにれをたがねるへてんじく工とアハルゆ多ヌのうだ  
さだのうとくみてあらうゑそのくきびとーるゆゑの。やがるべき  
のかてのくらえらうまるとなれりまーかぎりのきりのうえこのち  
かうぶのかてのくらえせとくまきうちみんぢんのむほとさんぢくにゅうん  
とあるのうりげー祐父あうりんとめられてこれとあうじまう。二十六  
ゆくのりとくにれをうまるとめられて祐のまじせんや。

二十九

ゑそのひもあくかまびつうをうのとあんぢるともおなちと  
祐のひどこと。りづくああこなんのめぐりきありとむとあてこれと  
そああくとあんぢるやああくさんのかざとむるや。ミナ

ミナ

そともれちえあうてミナとくらふ徑よりたゆる天よりのちとあくと  
てかきとよくらむとくう。ゑそのひもあくこれきとおうよあんぢと  
よづげんさせかの天よりののちとうんぢとよくとくらふとく天

ミナミ

よりのきとののちとあんぢとよくと。よそ祐ののちとへりま  
天よせむりてあらうをせけんよりのちとあくよのう。ミナ  
ミナはねえいのちとよれとよくとく。

ミナ四

ゑそのひもあくかまびつうをあんぢののちののちとよくとくのく  
りくもう多だこれとあんぢるのへりよもかきうだ。さうあんぢとよれと

ミナ六

ゑそのひもあんせざるへこれあんぢふあんぢとよくとく。かくと  
りくもあんせざるへこれあんぢふあんぢとよくとく。かくと

えそのりひ 猶々く されもあそちりのちのめら され えほく のへ  
りくもう多び これと あんぜる のへりも かひくば。 三十六 とく あんぢト これと

三十六

父 ども あんぜざる へ され あざふるんぢト うりひ たり。 かよを 父  
これふみくする ののへ くあらば こまく まく こまく かづく ののへ され  
りくふゑそ も それと あひ ひづくば。 三十六 ようて され 天 よう げつ て かのゑ  
こうぢーと ある みやうだり まー へ されと つるを ものへ そろぢー。  
三十九 あべて これ みやくする のくうち よう され おみ もう あひだ そそ あくう  
あて あひ多の 日 あひ と かと へ こまく まー されと つるを ちくの こうぢ  
ヨリ。 かよを ねむと 見て あう みて こまく と あんぜば かぎり うきりの ひと  
みて されも あひ あひの 日 これと あひを へ これ されと はくを ひの  
こうぢー なり。

四十一

よく どもの えそ され 天 よう げる のめら とりひ 猶々く する みよそ ざくやき  
そく そく そく。 三十九 よせふ ぐむ えそ みやうだ や。 その 父母へ

四十二

ヨレド こゑと ある りくか あそ され 天より 會る とりみや。 又その りく  
あそく さくやき そしる と かられ。 こゑと つるたぬの 父 こゑと ひぐされ  
くれも され ぬ ほくと の こゑだ ほく わのへ され あ多の 日 ふ こゑと  
かくさんと 也。 ざき ある もの どもの かき あじ みりそく 神 よう か あらわん  
と せゆ ふかちを 父 と さく て あらう あそ ち あらぶ わのへ これ まつく。四十六

四十七  
たまも 天父と えぐる わの おー 神 より の わの の 三 天父と えぐり。  
され あそ おる は さん ぢよ みづげん これ えん ぎる わのへ かぎり おき  
りの ちあり。 され りの ちの の ちあり。 さん ぢよ げせん せ ぎも あれ ちよ あ

四十八  
て あそ かと くらか て つる ふ き ひ おー こり。 くらか て あらう あそ おー  
ざる わのへ 天より 会る わの ちあり。 され 天より 会る わの ち  
あり。 ふ こゑと ふ く かぎり おき みり きる され あくさんと あら わの ち

あ あ あら こ い が ふく せ けん の りの うと あら ぐ こ く あ あ あ あ あ あ あ あ あ  
と あら わの なり。

ざるのへ天より下るののちあり。これ天より下るのりさるのち  
あり。人をとて人をかぎりゆきよりさる。これあくとさるののち  
あからくよくせんのりのうとさる。ぐくらはあくとさるののち  
とさるのなり。

五十三 よくともあくとひてりとくとさりげんをよくそのあくとくらをす  
や。又そのりひぬとくされきとをうよさんぢとつげんさんぢとふん  
げんのむせきの血とのまげんべあからくさんぢとくらゆりのちう。  
五十四 五十五 よくともあくとくらのよく血とのむのへかぎりゆきりのうとゆりよくも  
あくとくらのよく。よくへきとふくらののよく  
五十六 五十七 血へきとくの三の。よくあくとくらのよく血とのむのへかきよれ  
をかきよれもかきよをか。りさるのちくよくとほくとされもちくよよう  
てあくうゑひきる。よくよれとくらののもきくよれよくとあくう  
そりさる。こりまへそ天より下るののち。さんぢとくらせんぞ

ちんかとくふてあらうをひかるグどくよわばれのりをくらふ  
のスケキリヨキエリギ。エソのクベアカンのヨリホヘをスアウテ  
リゆるときのことともとりひらひこり。

五十九

で一ぎもかわくこれとまことりかくふみにこれをくまくよくとまると  
まん。六十一エソヘで一ぎもそれまつそざくやをそあるとありてのひらひとく  
えんぢとそれまつそミムくまるや。六十二ひんやんげんのむほとのもの  
とまろよのがると見るよかてとや。それりきくはのへきく六十三きさり  
あくへきをもるとなくこぢりエビ六十四まきてまことりのちとさり。六十五あくと  
きもえんぢとぐうちあんぜなるのもありな六十六エソあんぜざるのの  
これかのれどうぶんとあるものゝとめとめとよりありひらひこり。六十七あくと  
ひらひらかるグゆ多ヌ已れえんぢとエリヒリコグ父よりこま  
らるヌのうびんべこれもエレヌ六十八エリ。エリよりで一ぎもかわく  
さりてあらひとまもニキハラ。エソリのナニので一ぎもかわく

それよりとうどんとあるものへととめとよりあり。ひらひらり、ま  
らるふあじがんばつれも正れえつてう。六十九よりでーどもあわく  
さうてかのあんともよまくゆく。ゑそかの十二のでーつりみて  
ひらひらくさんぢよもあくさんとあくあく。そのんべてうりんく  
あくかぎりうきりのちのエをあり。これうりんや。これう  
スのあくべくれぞとりける。神のむすみくるとあんじある。ゑそり  
あくさんぢよ十二人ののとが多くどきののよあくべや  
あくきどもさんぢようちのへチんをよき。ゑそとまどりかてものん  
ゲむすみよどりひあくモう十二でーのへチんをあらまとうどん  
とあるのとゆびざくあく。

一節

第七章

そりのらゑそへげやくよあくよあくちくよゆきあく。六十一  
よこどもかのあんとそさんとあるよよてあり。よこどものあく

なりのせやちりよ。又そのさやうざいゆくとそれよりさうてよでや  
ゆゆきてて、<sup>四</sup>一ざもようんぢのむるさうとアセーメト。りまざのくらふ  
あくれんとやうそとあくうをそそのうへとかくれよあるものゝのじ  
さんぢさくとそろのじきへかのまとせんよわくらせよ。<sup>五</sup>けぞーさやう  
ざいもよやりまざのむろととんせば。又そのりひぬくくうんぢうが  
さきはねよひあざがときりまざきくらば。<sup>六</sup>せけんよくさんぢうと  
きくらばをあくうあてこれとさく。これそのあくこのあくきぐると  
あくうこするよよみており。<sup>八</sup>うんぢうのせうとまゆるよゆけよりれべ  
りまざゆくらば可がときりまざきくらばをまくよーほ。<sup>九</sup>  
ゑそりひどそりてされがやくよとがる。さやうざいゆくのむらゑそ  
ちせんときのりよゆきてあくらふせばをあくうをかくよーほ。

よくともせんのくぎりふゑそとこづねてりづくかきのぐくみくある。

ゑそひせりてあれやくよどむ。あやうのりゑそひせりてあれやくよどむ。

せんとまゆるゆきてあくせんとせんとあくまそかくよどむ。

よしもせんのくぎりふゑそとさねてりくかぎりぐくあくある。  
ナニ  
よしゑそはまてさくやへとあわへよきんとりすもおりあくべりす  
のくへとまざなみのとりすもあり。あれぶもよしもともとおそれて  
されものくらふそのことりたば。

ナ四  
まくふせうくぎりのまくふゑそてらふのやりてまくへとかへらふ。よし  
どもおのくへとわやへそりまくほんりまごさきをばるくよしとぐく  
をもる。ナ六  
えそのりくあくくじぐまくへかまくよりよめぐだりほこれと  
ほくのそめのよう。ナ七  
かうじぐかまくあるひへ袖より一あるひへ口がきのきグエバようある  
とある。かのきグエバようあるものへきのきグエバようある  
ものとほくのそめのくさりとのどあるものへこれまとのものと

もそのうちよもふぎのとす。もせあよもんぢとよもうかうと  
 さがけじばやさんぢじへチ人もこれをきめじば。きよそれを己れを  
 そろさんとゆりよや。<sup>二ナ</sup> めろくのりぐくさんぢかゆくゆくとくうさん  
 ぢとそろさんとゆりよや。<sup>二ナ一</sup> もそのりひぬくされひどふの工とかとく  
 てかんぢとみみのやちむ。それもせさんぢと小かたをまるわのとさがけ  
 くうあくとびもそのわへもせようもる。ゆめじりまーせんをどもよう  
 もゆへよかんぢとりとふ日よかくそんをまるわへもる。んりとふ日よ  
 かくそくのれひとうけとせがやふやうよそかくよのぶるくあくじばせんをち  
 りとふ日ふんととぐくうわをとくさんぢとこれえりうるべくよや。<sup>二ナ三</sup>  
 わくのかくらをゆうてたぐにとなうとひはくとばくよぎをゆつてせよ。<sup>二ナ四</sup>  
 あるさんのかくのくらくうてりなとひとくとく人のそろさんとゆらむるそろ

のののよめじばや。ゆまかきかくよのりとわもかまよおもり

わくのかくらをかうてなばりとなまきとほんとくせりそせり

二十九

ゑるさんとのばのんぐりてりとくとく人のことさんとくらむるところ

のののよのうだや。ひまかきのうまめのりふこれもかまよおもり

二十九

とゆーあははうきぎりともかきがきとのれもとくことをおふある

二十七

や。あらまばれれとくぎりびくよりある工とあるれもとさくるゲ

二十八

じきへかるうだこれもそりびくよりある工とあるれもとさくるゲ

二十九

ゆつてかまゆるとくよがてひなくうんぢらこれとありきとひぐひぐ

よりある工とあるや。これひぐきくよあてあらうみてきくうだきこの

二十九

ひのこれとづくをへうりうんぢらかきをあうだ。うぐひきかきとある

二十九

かきこれとづくをへうりれもあくられよりあるとみへてうり。んゑそと

三十一

かくらんとくつもとくとくひまかきくまくらむるゆへよのうかくらんと

三十二

かけのうす。こまかわくこまくとんべくひくくれまどりひく

三十三

てんじく工とあらうへあははんよりあくらんや。

ふにぞもとあるのちくふかくとくやくのかくのじくたるときく  
てもあたらきぐりつるさのからともとよやくみんとやをての  
あらととらんとせ。そそのりぐくりまみをくにれうんぢるととのふを  
のちふにれとほろれのふくる。さんぢとくまふにまくとくげねれども  
のちだこぐどるとむろ又えんぢとくらるとゆくとんべ。よへどもたがひく  
はがてりぬくかきまくえりぐくようゆきてあくうをとれとくまく  
ほたぎんや。のよへモねえさんぢどるのゆづきとあくうをとへモねの  
んとわあんとわくあるや。かきぐりたゆるにれとくげねどものく  
にゲざるところあたるとのなをざるへときさんのはいをや。  
せらのをゑあをあらかわひる日ゑそとくとよおべてのくひをく  
んかきうべにれえづきてのくべ。にれをえんぢるのへそのをらより

うあいだりきるミゲるがくるとくのエーかきあらとよのうるときり  
う。ふと三ひとのへあらへゆきとえ。えんぢるのがもきまくすゆくね  
う。

せらのをゑをあらかわす。日ゑそつてよれてひだりく  
んかうべされまきてのむべ。それゑんざるのへそちらより

ミナハ

うあじりきるみぐろがまるとくのじかきもるそゆのうるそどり  
きり。ゑそこれとりひらひへかのまをえんざるのじもあくとみをねを  
えかんぜらまんとあるときす。そのときゑそりまざうへかぢうされ  
めをざるゆふ歎詠能りまざくじ。さううちかわくこまをまのそ  
それまことかのさまあるのじりとよもあり。づくよれどと  
りすもあり。まくれどとあえぐやくよりいざやとりすもあり。うき  
あるをえゆえれどとのぞひでぐゑそんとこそぞひでちむとむろ  
べぞんのむじりびるとりなざんや。それゆゑまのむかくよつて  
あらそくろんば。ゑそとかくんとあるものまどもこれもものむかく  
まとかげ。

四十五

やくゆんまくらはうのからとふことどもとよくる。こまじかま

四十六

四十七

四十八

四十九

五十一

ヌとひてりとくさんぢをかきをひきせんざんや。やくふんぢもの

四十六

りとくんりまざいんのじくよのりとく。ふこせをざものさんぢと  
ちまくちまざされとく。つうさどりともふことせどものうちかきをあんぢる

四十七

四十八

ののわるく。とそのもうかうとあがくるたゞばきどみのうゑる。かきと

五十九

ぐうち一チんかのむくとあらのとをえそよほくのふこでもかきと

五十二

よりかとりとく。さうべとてそのうじとこうとあがくるさきふれどりぐやら

五十三

わうわえんとくざんや。りとくなんぢもまくがやくよりくさざれかん

がまよざきあるののがくよりかるとす。あくりまくりへ

くる。

**第八章**

一節

えそをがりゆきふゆきて。おやめきてじよかうひびひてたまみ

こきよつく。えそざしてあらうをちまわ。かんかりんらんをちまわて

んよかくらぐるとあり。がくおやふじとぞもこまをひきとそえよ

四

エセを切りやまゆきそ。やめきてしよかり放ひてたゞみ  
こきよつく。エセざしてあくうそをちまわ。かんかんらんをちまわ

ルエカドウモリトアリ。ガクエマフヨモドモコモヒキテソエヌ  
はくめのうくのうふかきそりとせんせんせんかんありんらんある  
うちかぶらられたり。五 カンカカクのじくあるトエヌモセグカヨの  
モトリリモテうちこうするべとんぢうふとりよそや。カミトこれを  
ゆそエセとそろみてうべせんとわつをエセヌをタモゲてゆび  
あそづらふくく。カミトサまだモとくえよそエセカキソリハジタルく  
えんぢトグうちのほこきのりちぶんめゆりーモテこれとうて  
かあり。六 カヌヌとモゲてはちよかく。エセとモくののどもかのきゲ  
モテユゼヤレテエヌヨリカトヨリトモモリカム九 モカリで  
さりてひモリエセとのちくわんもキヌエト。エセヌとモモー  
わんのわくよこきもアビーとれよりひがくかんかんぢと

うつぶのへりべくあるやうれもさんぢとつまもてるとおきをや。  
りんくさんくもす。ゑそりひびくくもれもすくさんぢとほ  
せばしがされよきとつまをかくもとる。

ナ一

ナ二

ナ三

ナ四

ナ五

ナ六

ナ七

ナ八

ナ九

ナ十

ナ十一

ナ十二

ナ十三

ナ十四

ナ十五

ナ十六

ナ十七

ゑそそくゆろくよはげてりゆのとくこわべりま、せんのむくり  
已れえきさぐのへんをよゆべりのらのひくことさる。ふじです  
さんりんぢんぢかのきグくわえをやうこまるをやうこへまことうべ。  
ゑそりひびくこれおづくらもやうこまとりくともあやうこへまくまこと  
けぞーこれりべくよつきそりべくへざるをあるさんぢとひがりべく  
よりさくうりべくへざるをあらだ。さんぢくみくのとどりこざくにされべくれも  
あらだ。ゑそもこれくべくともひがりべりまーまことけぞーこれひきうのみま  
わらだりまーじゆくとじゆくとつまをまの父となる。まくさんぢとグカラヌ

ウキあるーてりまくあやうこへまくとものまことと。かくのじー

ナ八

「おおむにあらも正れ。」  
「おおむにあらも正れ。」  
「おおむにあらも正れ。」

クミあるへりとくあやうこへるてりとのくそまこと。  
かくのじ  
正れかのきぐさらはあやうこせ正れとつうをほの父ナハも正ぐさらは  
あやうこそ。  
正かりとくさんぢぢちりばくよくある。正そのりはあらく  
さんぢぢ正れとナハ正ぐ父ナハともあらび正れとあらべをあらら正ぐ父  
ともある。正そてらぬわかとかもゆ。ヌクねぐのまへとまをりは  
あらのあんのまもりまがりまがりまがりまがりまがりまがりまがり  
クけだ。

正そそりはあらく正れゆくさんぢぢもく正れと正ぐねんとあらう  
あてさんぢぢ正ぐつまうらみ正せん。正ぐゆくのまくらへさんぢぢまくら  
正と正だ。よくざものりとくかとおぐせんとせんやさんを正ぐゆ  
のまくらへさんぢぢまくら正と正だとりよや。正そりはあらく正

ぢとおもよりこれへよりおんぢとせけんよりこれへせけん  
よりせば。三十四これくまがゆへよるんだとかかじとせんぢとせん  
とりひきりけべーさんぢとせんぢとせん三十五  
うちよゑせんとくまじせり。三十五まかりよゑんぢとせんをやゑそりひ  
めぐくよれあぐりひつるへとす。あり。三十六こほくさんぢとせんてりなん  
とあるそーかわきあり。まご正月をはなだねのへきてよりわれの  
かくよりさくのへ世よはす。三十七まかそりなん天父をゆびざを  
エとあらば。ゑそのりひめだくさんぢとせんのむまことあげるとき  
まきた。正が正とくまじとせんぢとせんぢとせん三十八  
ときりよりエとある。正とつうをほのこれととめにゆづれへんり  
のみてさうびけべー正れはねえのからくのようをとどくとくとく。

さをりよりとある。口説とつたはのこれとためにも又これへんり  
のとくさうばけでーされはねえのあらのようぶどうとかある。

ゑそこまをりひ 痴かときんかわくこまをあんば。ひまゝよどびの  
三十一

うちのあんざるのよりひ 痴かときんざうひが みわを ほねえ  
あればまことよひでーあり。かんざうをくまこと あらんと まくひ  
かあじだなんざうをゆるーとせん。三十二

三十三

かかりたく正れうのべらんのあそん  
のとよりひまざんのあこと あらびるんを正れうゆるーとされんと  
三十四

三十五

ひや。ゑそりひ 痴かく 正れまこと あらびうす あんざう はげんはまを  
かうものへまのゆく。それゆふこへまくひりへよどがまくひ まくひ  
まくひ さぐまる。三十六

三十七

かうものへまのゆく。それゆふこへまくひりへよどがまくひ まくひ  
まくひ さぐまる。むかと あんざうをゆるーとせば まくひ まくひ さぐまる  
三十八

とあらん。これあんざらめべらんのあそんなることを。たゞひでひり

あんぢづがうちよりひるとまくひ あくひ ゆかんざう ひまをこうさんと  
かくま。これひが あくひ あらとある まくひへまくひ あら こまをりふあんざう  
三十九

えんぢよが父小ちひてゑるところへまわらちそれをわざあふ。

三十九

のべらさんへよがちくすり。ゑそのひひひひくえんぢよの／＼  
の子がもういびくさらばおだらさんのもがとをかさん。四十一 りゆせれ能  
よりさくともろのまことをえんぢよはくふのんとりえんぢよからそ  
これとこうさんとからつまるへこゑねべらさんのもがとよめいだ。四十二 えんぢよ  
ひきりゑんぢよがちくのあひがとねとあみのま。三かりとくにれり  
りんらんよりまてあうあそうまれるよあいひとくのちくすり  
あきらら能すり。ゑそのひひひひく能えんぢよが父小ちひてあらち  
くあいだこれとめせんよろて正れ能よりひくまくすりて正ぐまくほ  
てあうあそまく小ちひりまうめのあくとこれとほうたくすり。えん  
ぢよのりひ工とさとくがるへさんせや。正ぐ工とくりときくと

だよりがのりとさとふざるへさんをや。正がエヨリとさくと

四十四

のくそざるゆへなり。なんぢうりぐるそろのちくへかよりさんぢう  
グちくのこのむそろののへさんぢうこれをかとあんとわつせかき  
をじゅようあうぐちるのまことぞんせばそのうらふまとかきく  
よそそり。かとさがくーじとりかへうまれつきふのとぐくかれとざらうー  
ののまことなざくーのちくさるどめにてあり。これうんぢうふまとと  
りかえよそてえんぢうえんせば。うんぢうぐうちくれうこれとほそゆる  
とあやうこしてせやるや。これまことゆぶうんぞうんぢうえんせざる  
や。能ようののへ能のことをまくうんぢう能ようののゆ  
のくそざるゆ多みきうば。

四十五

よくごのこゑへてりかくよれううんぢうなモヤのんくわくわくさるく  
ののとりかくのえううらざんや。えそのゆひぬたくされかよくあくくろく

四十六

四十七

のふのうべにされ。正<sup>五十一</sup>父とうやまみへき。さんぢ。正<sup>五十二</sup>れとえべく。あ  
かのき。正<sup>五十三</sup>ゲさくへとたゞねる。かのうべに。正<sup>五十四</sup>のこだねてたゞす。のり。正<sup>五十五</sup>れ  
まと。正<sup>五十六</sup>おんぢ。正<sup>五十七</sup>よづげん。正<sup>五十八</sup>んじ。正<sup>五十九</sup>れ。正<sup>六十</sup>とちく。正<sup>六十一</sup>バ  
せだ。正<sup>六十二</sup>よく。正<sup>六十三</sup>ぞの。正<sup>六十四</sup>りたく。正<sup>六十五</sup>これ。正<sup>六十六</sup>りま。正<sup>六十七</sup>かんぢ。正<sup>六十八</sup>おうく。正<sup>六十九</sup>くとく。  
のべらそん。正<sup>七十</sup>おこし。正<sup>七十一</sup>こくさき。正<sup>七十二</sup>ある。の。正<sup>七十三</sup>ぎも。正<sup>七十四</sup>あく。正<sup>七十五</sup>おんぢ。正<sup>七十六</sup>んじ。正<sup>七十七</sup>れ。正<sup>七十八</sup>ら  
とまゆ。正<sup>七十九</sup>うへく。正<sup>八十</sup>ふ。正<sup>八十一</sup>せだ。正<sup>八十二</sup>とりみ。正<sup>八十三</sup>おんぢ。正<sup>八十四</sup>みれ。正<sup>八十五</sup>れ。正<sup>八十六</sup>せんそ  
のべらそん。正<sup>八十七</sup>よう。正<sup>八十八</sup>かわ。正<sup>八十九</sup>よ。正<sup>九十</sup>さき。正<sup>九十一</sup>する。の  
さも。正<sup>九十二</sup>あく。正<sup>九十三</sup>き。正<sup>九十四</sup>おんぢ。正<sup>九十五</sup>の。正<sup>九十六</sup>き。正<sup>九十七</sup>を  
それ。正<sup>九十八</sup>の。正<sup>九十九</sup>と。正<sup>一百</sup>やま。正<sup>一百一</sup>お。正<sup>一百二</sup>う。正<sup>一百三</sup>う。正<sup>一百四</sup>め。正<sup>一百五</sup>す。  
のへ。正<sup>一百六</sup>正<sup>一百七</sup>父。正<sup>一百八</sup>おこら。正<sup>一百九</sup>おんぢ。正<sup>一百十</sup>の。正<sup>一百十一</sup>う。正<sup>一百十二</sup>と。正<sup>一百十三</sup>さく。正<sup>一百十四</sup>の。正<sup>一百十五</sup>お  
の。正<sup>一百十六</sup>かく。正<sup>一百十七</sup>と。正<sup>一百十八</sup>お。正<sup>一百十九</sup>の。正<sup>一百二十</sup>お。正<sup>一百二十一</sup>の。正<sup>一百二十二</sup>かく。

のちうとをもばまれのちうとあるひへされのちうとをもば

とりふもうちらへとおんぢよじくおんじよじくおれのちうとを  
ありてあらうとそのことをりとす。五十六

五十六

ありてあらうとそのことをりとす。五十六

ごくこれをえんとあらへとくらへるときへとあらうとのあらへり。

五十七

五十八

よくどかのりあくさんぢそりまざめ十すばゆみどらさんとあらへる

や。五十九

ゑそのりひびきとくられまことにあらはよんぢよんぢよんぢよん

五十九

とふざるざきこれりまた。三よりとどりてわのせんとさげうさんと

三

せたゞゑそのりくさんまかりゆきててらよりひぞあらうと

さり

一節

第九章

ゑそのゆきさりぬふのとをうまれてようめぐらするのとだる。

で一どもとひてりあくへあやうけんうまきをあらうとめぐらるべ

ときこれがつみをや。かのきよよるく父母よよる。ゑそのりひびきとく

かきぐはまよも父母のはまよもあいだりとくよきぐうへかくそ  
のあらをゆくされんがくよき。ひるどきこれくまいだこれとろをく  
のくまいだをうにあらまくとりておあらうこれもよくおれとす。

五  
これ世よりまほあひだこれもあらう世のひこうそ。ひくどりては

つねきてはなきとめそざうとこれでめなう人の目よねりつて。

七  
こゑふくとりてゆきてまろのりけよめくよとりみゆ。その人ゆきて

あらまそくるときへ目のきくより。まろのとくうやへりくもあらう

はくをさる。

八  
となりの人とのとくりそのめくらるるをるのせどもとりにくそれば

こそあらうもそそののゆめだや。九  
ありとりぬもありくらうまよ  
みくりとりぬあり。かのまをあらうこれととり。ミカグりくくえん

ぢぢ目ゆくかあてゆきじくうりくるや。一  
くありぢぢとくれてせが目ゆくうりくゆきてくらひのすくくま

ぢぢ目ゆくかあてゆきじくうりくるや。二  
くありぢぢとくれてせが目ゆくうりくゆきてくらひのすくくま

かへりたりともあり。かのまをあそばせられることり。ミカゲりとくさん

ぢが目りうふゑておきしりうりくるや。そこへてひとくゑそとおぐくの  
人ありざれどもれてこび目又ねりてゆきてそろひのりけよめくよと  
りひりねりつまむおまちゆきてからみて見る事とあら。ミカゲりとく  
その人りざふくあるひとくあらば。

ミカカのむすめくののとひきてふじせんどもおきぎまつり。それ  
ゑそぞうとこれでかきぐ目とひきを残ひくるへりとふゆうり。ふじせん  
ぞものとひりうふゑて見る事とあら。ひとくのかんざうとのくとこぶ  
目又ねりひてこれあらかとあらうゑて見る。ふじせんどものうちば  
人りとふとまかふだもと能ようふのうだよりかわうべうよまくほえ  
人りざくみをよくそながのてんがく工とあるやとりかもあり。そき  
ゆへまゐのむゑをふうり。めくら人又まくひとくあらがふるんぢが目

といひきたりさんぢかれをりうする人とありよや。りくさきあるのれを。  
よくともそめくよそてゐることあるとさんせばそめ父母とよびて  
そひそりなくさんぢくむすみのそうままでもううそめくよると  
ゆふは人よかばやひまゆふをそらることあるや。父母のりなく  
これかがむせとうまれてあらうそめくよとあることをこれとある。ゆ  
りくふそそぐことあるへこれもかばされを所目といひきくるへされ  
きとおらば。かとゆそあおりかまえそひそゑづくりなあひだ。父母  
そひそりかばせどりよくせあそる。よくともかとゑそとれぞと  
とくととくみのへくよかばそとよりのひをよりかひりじにとやく  
そくあるよよそとあり。かるぐゆく父母かとあかなりこれ  
とふべとり。

をくあるよよりてありかるがゆゑ父母かきかとおなりこれ  
おべりとり。

二十九

ふじでせもまきむわくしめくらくるのとよびそりくさうりと猪又  
クセよひねじせんつみびとくるとある。ひぐくつみびとくるやりあやと  
されおふだむく一めぐくこりまどるへ云れひどらと云れる。まくとひて  
ひぐくかきうんぢぬうすとめそあくるやりうえそなんぢグ目とひくき  
くるや。ひぐくこれおふぐふるんぢトおはげこううんぢトおふだるんぞ  
あくたびきうんとわうむるやのふうんぢトものれせんのとくとく  
とわうむるや。まかこれをあかぎりてひぐくなんぢくきグでしくる  
されよへおせのでしくる。猪のむせよミヒリヘ云グあるとくろ  
きりさぐこれグリグくよりくらをあふだ。ひぐくのれせんの云グ目と  
ひくきそなんぢトおれせんのりぐくよりくらをあふぐるへまくとある  
ふのふだや。それ正まくと云れある猪へつみびとをうべと云猪と

さへとひまへそてそのむねよもぐみのへまきたち。それとまく。りゆへ  
へよりこのくじうまれてめくらくるのく目人よくこまきとひくことと  
りまざさうば。せん詫ようよみがれどよくあることな。三十九  
さんぢとぐくしまさうふうまれたりくらでこれとをもあゆるや。つひえ  
こゑとちひりだく。

三十五

ゑそそのかわるくとまくとこれよみがれりひぬたくさんぢ詫のむきと  
あんぎる。りゆくましまのかくとこれをやされとそものかくとそん  
ぜくめく。ゑそそのりゆひぬたくさんぢをざえこれをやくうさんぢえ  
のりゆのへこきなり。りゆくましまされそんぎ。つるよみのかくとそ  
の。ゑそそのりゆひぬたくこれとざれとざれとざれとせくふくふくと  
をきて卫せてめぐるのへくらでめくらとおさるグゆへうり。四十一

えどるふ卫モモとおとをとあくとひくにふれらもまくめぐり。  
四十一

モエそののひがみをくにれとびらがくわゆせふくじりてゑざるのの  
をもとゑせしめゑるのへくにてめくとあさるグゆへり。うくとト

四ナ

四ナ  
ユミルふことども此ことをきてりかくにれともまくめく。  
エそののひがみをくにんぢりめくとあらがをかたちつゝく一りまよく  
エるとりおもむからんぢりげはまくわぞんぢ。

第十章

一節

正れ身とぞる又きんぢりよびんニよりひはドをよりひだをそ  
あもるよりおがるのへねをびとくひをぎる。ニよりゆのへ  
かひびとすり。ウんむんこきゲくらよひくひはドそむこ多ときて  
つあみひはドの名とよびとそれとひきてりだ。初のとグひはドとりひ  
ときへこれえさきどくてゆくひはドそむこ多とありてあくらそて  
あくらぶ。五  
よしひとよもくひだそこれとさむるよしひとよもく多とあざる  
よもくとなり。エそくくとくをくとまうけぬひそ人の代あくらの  
よもくとなりエとさむくだ。

七

ゑそきりひめとくにれまとおふくろんぢとみづんこねべをまわら  
ひはドのエコレヌさきみをひくるのどもへねそびとおりち  
をきさりひふドかほととさうば。<sup>八</sup>コレアもあたらエヨリコレよりり  
のへまうれんとそりでりりくえのとる。ねせびときくうてのくを  
ねせみとろくわなたびぐさみのミヨレキマヒトヒラドとそりのち  
とゑーからざうんうどまむ。コレアリキトよきかひびとよきかひびと  
ひはドのたわみのちとある。<sup>九</sup>やどひびとひはドのくひびとえのくを  
ひはドへちのきグひはドヌカシギのへかやくみひくるとゑそひは  
ドとのくわきとみぐるかわくみへもあたちそひはドとはうんで  
あうちそむくがりさんぞ。<sup>十</sup>やどひびとみぐるへそりやどひびとくり  
ひはドとくりえざるふよそでり。コレアリキトよきかひびとくりひはド

とありてひはドふもえぐる。父のヨレをきりコレもあく父をもるが  
ナウうつうつうつうつうつうつうつうつうつうつうつ  
ナシナシハツハツハツハツハツハツハツハツハツハツハツハツ

ひぐドをうりておきかへばとひぐヘそのやとひぐとさう  
ひぐドをうりておきかへばとひぐヘそのやとひぐとさう

とありてひぐドみもあら。父の口れをありされもあく父とあるグ  
じくかうされひぐドのくらよりのちとある。されもくづうのひぐドあり  
ひぐドをよりよめうざるののこゑとおされくあくだたびさてこゑ  
こゑえきく一めておじぐりらかみびとへんりふあるべ。父口れを  
ゆへあるへこれりのうとまくあうあそきくひまるとゆへそり。口グ  
りのち人ようたむるよめうざれ身ばくとそれをまとめる口れよくこゑと  
ある口れよくこゑとまとめてよくそれをまとめる口グ父よりうけの  
むねうり。

ちくぎもこゑとまとめてあるあくとすり。おわくかれちくあくされてまとける  
さんをこゑとまとせんやとりふもあり。べくはかれちくあくざるくの  
ことえのくじかくよくめくとののぶもの目とのけんやとりふもあり。

二十三

二十二

二十一

二〇

一九

一八

一七

一六

一五

一四

一三

一二

一一

一〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

あゆれとをゑるされんよあそてらとかざるのせら夕よゑそてふよゑ  
てそろひんのせんそんぬゆきぬえさり。よくどものれちくくとくもみて  
くさりてりそくさんぢヨレドとぞてうごれそくむるとりくまでぞや  
さんぢくれそとおぐべのきふうよコレドハつげよ。ゑそのひみめく  
これゆきくさんぢよはげすりさんぢよさんせびられ父の名とこの三  
てあるをきへこぐさわよゑやうこそぞ。さんぢよこぐひくドハつげ  
そとゆくそとんせびコグリひくとどり。コグリハドコグリ多とさくこれ  
こそとおりてあうそひくドコグリ多とさくこれ  
りのひをたまひうもうあらうだまくよくこれとこがまよううゑよめの  
す。父コレユコモドとこまみのへようびよりかかひさりよく  
これをこが父のまよりうゑよめのす。コレと父とひくとく。

二十二

二十一

二〇

一九

一八

一七

一六

一五

一四

一三

一二

一一

一〇

す。父曰れ又こまうとくまみの父よろんよりかかひありよく  
それを、お父のまよりうなづけす。曰れと父とひとふたり。

三十一

三十二

よこぎもりーとさりておれあらへとうくんとわらま。ゑそのりひほきく  
おれ父よりこそよきかくあひかわきをゆうておんぢうよあらーさう

えんぢうりびきのちくあひのゆへよりーみておれとうくんとあるや。  
三十三

よこぎものりくくおれうりーゆうてえんぢうとうへよきかくあひのゆへ

えんぢうだあらうびのゆくごんあるゆへのミさんぢんぐんくらとまくへかのと  
三十四

ゲ能とりよ。ゑそのりひほくえんぢうりがやらわうよこれえんぢうと能

とあふとりりうべや。かう種やざるべくうべ。のー能のとさりかくぶ

のべ能とあふりさんや父八郎とそせさんよはうてこるのれ  
三十五

ののきを能のむすととりかよはうてあらうべのゆくごんあるとりふや。  
三十六

これ父のあらうべせざくねばこれをおんぢるとおくれ。のーこれこまく

せばこれをおんぜびりへども己がもとぞとおんぜうのうて父よげさくふおれも

父のさうふあることありてあんぢべ。三か月の代わらひとくわんとかつも、<sup>三十九</sup>さそそれよりのれざりぬ。ちよゑどんのさうふゆきてよそんのをどめてあぶれへむるをきろうりこうてあまぬ。  
四十一  
人ちわくわ代わらふはきそりくよそんてんぢてをかこあらばとく  
せんとゆがざしてりかへまかきて。そどもなにかれどもろみえんぢる  
のれぢや。

第一章

一節

さにぐいびやうをやわらて名へらざるそれべあねの人べあねへ  
りましまでやとかきぐのねまきあとのむ。までやをあそちかせかう  
やくとめそそくよあがくからくのくみとのそめ代わらひとく  
とのぶみの代を代わらうぶらざりやまひへとく。ゆくよあねりもうと  
人とやりてえそよづきてりをくらむかかあかくのめへをきらのめ

とひふのれをれきやうどくらざるやまひへり 四  
人とやうてゑそよつきてりをくとくかのあとのめんをとろのれ

やまひへり。ゑそこれとまくとりひ強たぐはやまひゑある小のいだ  
りまゝ詠のさうりのあ詠のむせことまをゆうてさうりかぐやうさ  
めぐるゆへり。四

五

それすれとりもうとこらざろと三かゑそのめんをるところのれ。  
それやまひあぐる工とさくめんがもどるところ又かとて二ウ日ととざまり  
てのちよで一ともよくさうりてりひ強たぐこれとともによきよてや  
ゆけよ。でしをものりとくま子とれのひどよとどものめんをり一もそ  
うとんとわらものあくさかまえまくゆきあふや。ゑそのりひ強たぐひる  
六ウとまくふわくばや。人ひるゆきてはまびだようてせくのひくり  
とどる。初るゆきとくあくばはまびくとれうち小ひくりえきえよ  
てあり。

りひどりてまくりひあらぐくされうげともらざろぬちるゝでされ  
ゆきてぬありとさまを。でーあれりんくさみかきぬあるときへ  
もあをちり多く。ゑそそれとりひそか生びるーくるとゆびざナニで  
ーへそれぬありてやせんざるとんざるとりゆ。つゑゑゑそそのまじく  
小それゆりそそりひあらぐくらざるナフーり。されかくこふりまぐる  
とようとびてさんざんをもておはせん。りざとめゆきてか生ナガえほん。  
でぐもととあふのとまをむらうでーふくくりてりづくされふもゆきて  
かきとともにゆかりたんとせん。

ゑそりくりぬみとそらざるほくえゆつてほり日より。べあねへゑるされん  
小もあるとまくざ六モ。よしとものあわくまきくとまぞやとよ  
つまてそれをやうがいのつかえこれとりひまがまか。まきあへゑそ

りひりぬみとそらてりづくのせむくとゆふ。まぞやへりくゆぎだ。  
ニナ一

水をかむと水々六モ よく どもの水をくまむと まさやと え  
つまてそれ せきやう せの くわえ これと ひ おぐまむ。 まきあへゑそ

りひり ほかと せん て ひじく のせ かくと ひふ。 まさやへ ひく え ぎれ。

まきあへゑそ ひり て ひじく かみ かへ そ ひ せり ほか さく せ まく

せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

と あ じ せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

と あ じ せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

せ く かく せ せ く かく せ せば。 あれ ども され ある あか せ せ ま に も の と か

あやうのりへりてきんぢとよびぬふ。まぞやそれとまくとせんやうよちきて  
ゑそよほく。ゑそりまざむりよりふじまくまきあのかくくよのひ  
くるとろよどる。よくざもりへよまぞやとりひきまくひのへかきげ  
きまやくよめきそりびるとゑるときへそれをかくりてりもくかきほく  
ゆきてるくの。またやへゑそのとろよりへりてこれをゑる。ときへ  
のまくよふがてりもくまきまくえきりぬくとくべにぐきやう  
じふくあくばれせば。

三十三

二十九

ゑそちんまきくとゑてまくかれともよきくるのよくおれまくと  
ゑるときへゆえさきくうをうれへるきぬひき。りくぬくゑんの  
まくろよわうむりくるや。りもくまきまくりゑくまく。ゑそかきぬふ。  
よくざものりゑくかきほ人のまるとあたびきかか。まくりも

三十六

三十八

三十四

三十五

三十六

三十六  
よこぎものりたくかきは人のへまるとあわせきかか。すりも

三十七

おりかきめくのく日といふへあはんとそゑざる。

とあはせざる。

三十八

ゑそまくゆみうれいかきてはうみりきりぬふ。

はうみりきり。やう。うよりく。ゑそのりひぬなくりとうせよ。

ゑーするのくわんあきやうがまきありのくさりまきどよ

四十一

日かをねくま。ゑそのりひぬなくこれゑんぢゑんぜば能のさうり

とゑるべとりひするふのうだ。つゑよりとやうむるとうりよう

四十二

うは。ゑそ日とおげてりひ路をく父のあざえ口れとまくへ口れ

ああてさるゆのりぐは。これああてさるのつねえ口れとまく路を

四十三

あらうがこれとりひてめぐりさるのとそゆあてさる口れをはうむ

四十四

くるとあんせざうむ。りひとおりてまろきことゑもそよがてらざりでよ

とりひぬふ。ゑーするのをああてりびさるまやくからもぐり

のねれみてゑをとむかひてへさきみてほくまる。ゑそひへほくくこれを  
ときてゆくめく。

四十五

よくともまさやにつくのへゑそのすりぬみとろとゑをむかく

四十六

あぢかあとゑんぢ。まゝゑそのじつてぬふとろとゆみてゆきそ

四十七

ふこじそもふも小づぐるゆれもあり。それうへきりはくさのくちりと

四十八

ふことそもとのくまりてぎん三ゑそりくばん人むかくとんで

四十九

とをきくへこれづりくんとせん。ゆくかくのじくゆるくかくばみか

くあくべかまをゑんぢろゑりなりて日がちくとたまとと  
うなづんとせ。

四十九

その一チ人ン名へくやふにかれ年かくまくはくきたりのくくよ  
りみてりもくゑんぢくゑにもあくべまくへちんにたまえくさりてゑ

五十一

してゑくゐのやうぶととおねぬくあむへされよかくさりてゑ

その一チ人チ名へくやふフ年かカ年かカうウたりのろく  
りあそくさんサンぢヂさサもあアばバ一イちチ人人なナえエきキてテ

してまマうウんのやうヤウがガことトとトまマねネぬヌまマうウるルへヘこコれレよヨトトとトうトるルことトと  
かカわワたタ。こコまマをヲりリかカわワののとトよヨりリぐグるルよヨあアばバりリすスそソれレ年ニかカ不ハまマうウ  
はハうウきキくクるルにニよヨそソてテめメうウそソののをヲとトまマえエかカりリてテるルせセ  
とトあアるルとトよヨ。まマくクはハたタののミミくクちチりリうウあアばバたタをヲ能ノののさんサンぞゾるル  
そソがガもモいイとトくクよヨののくクーーむムるルググとトあアよヨりリ。これコレよヨうウそソあアうウあアて  
ののちチののうウくクゑエそソとトまマうウんンとトあアるル。ゆユへヘよヨゑエそソあアくクよヨあアざザも  
ののうちチよヨきキゆユうウばバかカののとトうトよヨりリさサりリてテれレちチよヨちチきキののはハくクに  
ゆユきキそソひヒこコむム名メへヘひヒらラりリんンよヨりリくクてテーーどドもモとトあアまマよヨ。

五十五  
よヨこコどドものモをヲきキこコゆユるルののせセらラちチくクそソかカぎギりリののさサきキかカわワくクのの人人

五十六  
りリあアよりヨリあアるルさサれレんンよヨののびビりリてテれレまマとトまマうウんンとトかカうウるル。まマかカ

ゑエそソとトうトばバねネてテてテらラよヨうウてテあアくクりリてテりリまマくクかカきキせセらラをヲまマるル

五十七

えきでござるへるんぢよぐそくひくん。まぐりつゝさのからとふじでち  
どもとりひはけとりじて人のうれがざるそくとあぶらもあちらアせふ  
とのそめれあうととかづらん。

第十二章

一節

十五四 もぎこゆるせふ夕のまへ六日をへべあれよりさり残す  
をあたちらざろひしてあうそめれあうとこゑとまくひきの  
ところあり。人あそてゑそのまくはまくまくしてまきあことそま  
かまくでくまくまがものへちんらざらおり。まぞやりよりて  
まくがりよりてまくたまきのかうやくらまんとのそゑそのまくと  
のまくへからのまくをめつてまくとねぐらかうやくのまくひり  
まく。でしるものへチんあまくらとうふんとまるとまくらん五 がほ  
よどきのあくまでうりあくさんをやくうやくをうりてまく三十まで

かづらうりあくまくざるや。かきこまくとりあくまくざくをくりまく  
かづらうりあくまくざるや。かきこまくとりあくまくざくをくりまく

五  
よどきのあくまでうりあくさんをやうやくとうりてゆる三十多

ゆうでしとものへチんゑゑやうとうんとあらむかんぐせほ  
かわふだりとりふきあがろとめらそこらをふとねまちゆよみて  
あり。ゑそのりひあらなくゑゑくやまかけよあんえんぬかうやくと  
むきのむきてヨダラうある日のようよそくへり。けぞーさんぢうきぞ  
きのへつてそをみゆられべづみそをたのむだ。

よどぎもかわくゑそのかきふせりとをありておあなちきくる  
ゑそのためのまゆのふだりはのれあくとひあるよりりきよのらざろ  
ともさんとやうせ。まぐりほくさのくらぎもまくらざろとそろさん  
とあらる。けぞーよどぎもかわくかきのゆくゆきてゑそとあん  
ぎる。

ゞぐ日たまねわくせう夕とまわりよまくりてゑそまくゑゑるさん

よりくうらんとあるとまくとまくの名ととりてりぞくの姓をもつと  
む。よがてりぞくやさんかねーの名とゆうてまくるのいちらゑモ  
ゲフ万のさのをひあるクア。又そ小うきをゆまふのとてこれより  
経ナシ。徑ナシ小よりグジミよんのむほめかなるうれ又うかがモ  
せたりとうさぎむまのころ又の。でしももとめて山ととづるせば  
山とさうりかがやくるののちのとゆれあくとゆびざーくき  
あるとれて人もあくとてかくのじくのれあくとゆがくとゆ  
あがへりざーく。又そとはれるのうくのれあくとゆらざろとほろ  
ようよびてゆきるよりまくひきく経ナシととて山とゆきら  
ゲトカヌキもうこーなまもあくとゆれあくとゆじくとゆき  
経ナシとまくとゆきてゆれあくとゆふ。ふこモモももゆひくよりて

りまくさんぢとるまうきをなし。のよ世こそりてまくよあくづ

りなくさんざりあるところをきかへ。のよ世をそりておとこよみくら  
ととどぐるや。

それせうのくぎりよこうとももるよきごるのをものうちへ是れ  
人のをそがゆくのべさひとのひそびりよつきてそひてりそくせんせん  
されづゑそさまとさんとやくそ。ひそびりよきてのんで毛やよづげ  
ゆんで毛やとひそひいとゆでそゑそよほぐる。ゑそのりひ  
せんのゆくのざうりかゞやくするのをきりへり。これまたとぞふ  
せんぢよホづげんむぎへりづけよからりりてりまごんちざるうちよ  
へりづのこゝらるときへとあらわく三とせば。わのまぐりのちと  
ゆかるのへうなそこれどうああふのまぐりのちとせせんよ  
かのとせんのへこれとぞんじてかぎりよきのりのちよかよなに。これ

又やくあるののへまくみにされよもぐべへこぐるところへこぐやく  
もまたかれ又ありこれ又やくあるのの父クアラビこれとうやま。  
ニナセ  
りまほぐそろひぐりさんをりみづきや父コレをもくかてせとをより  
ニナセ  
ちねぐく一猪ベトヤ。コレひとりこれゲトウヌヒとをよりくつう。父  
ニナセ  
のあかく姓名とかぐやく一猪ベ。天よりこののゆみてりかくコレ  
をぐみこそをかぐやく一猪ナリ又これをかぐやうせんとも。タマトシユタラ  
さくのれがものりをくこれくまよりこゑうり。天のつるひおれあくくえ  
のれりふとゆもなり。ゑそのりひ猪太くはこゑうりぐくらえのうびうん  
だりぐくのミ。ニナニ代せけんりまえかのとごきるはせんのきみりまえ  
かをすかひりだくる。コレはようのげをあまくとまへあまうちのろく  
とひきてわのとにほく一猪。ゑそこをとりそくのれをもとめそ

云せんとある工とあらへり。

とひきておのきにほくへむ。ゑそこまとりあてまゆのゑをもとめそ

ミナミ

ゑせんとあることをあらへり。

ミナム

ゑあぐりたゞく已れり もくわうす んせきと えへく よぞんぢると

さくのあく むんぜんの せせと かくべだ あげらるとり かくは さんをや。そ

ミナツ

ゆんげんの せせと かく これぞや。ゑそ の りひ みどりま まをく ひくり

えんぢしと とも かおり ひくり ある ときへ まくらち ゆけよ くを くら まち

いくる こと あそる。ふき うり ゆく の へりべ ふゆく と うろと あらば。

ミナハ

ゑれ ひくり ある とき へ ひくり と えんぜざる の ふと ひくり の すがもと うる

べ。ゑそ りひ きそり て ひきて あう そそく みる。

ミナセ

ゑろく グキ ぬ あそ かく かあき かぎの てんじく こと す みぶと

ミナハ

り ぎもん きれ あれ かくと えんぜば。かくの じく さき ある いさやの

エベ あく か きり て ひくく ねへ ひ け づく て くる か ばれ これ

と進とあんぢるやねーのうでくみかこれ又アせど。や。<sup>三十九</sup>の

のれぢくとあんぢざるへいさやのきなりをめぐて。かきぬんうち

の目とめぐはせぬとこもきは目。<sup>四十</sup>あきひくひさとりひらひ

ら進とされもく進ととおとをことかそ。いさやねーのきなりとアる

ときへあうもと進とりひく。あくともつらさざりのくらうら又

あわくのれぢくとあんじたふこそもふようてようあひをより

かひりざれんことをかれてめじをえわれかくとあくがなば。けづ

く進と人みなむとようとが猪又わらるよ。まされり。

四十四  
多そよびてりひ進とくこれをあんぢるのへされとあんぢる又あひだ

りす。これをつかむをのとあんぢる。あくこれとアるのへされとつかむ

のと。されりす。ひきりこうせけんふきくとてされとあんぢるのと

のを。されどつづきをめのと見る。まことにあれど見るのへされどつづき

四十六

のを。されりキテひきりてうせけん不きりてこれとみんざるのと

あそぶをよきとせんざらす。されどさくとあらうもとあんぜざる  
のへされこれをさせば。されまくしてせんとくどもよあらばりす。せ

四十七

さんとあおぐくのミ。かよそされとあくにげ言とうばざるのへ

四十八

それとくびらのわり。あおむらこびりよとくのとくりを多く日くあらば

四十九

それとたゞさんと。これかきふもとあらうもとりかよあらばりす。

五十一

これとつづきと。えりふべきからべききくろとめりてこれよりは

ほげより。これもあれおくなれりひつげかぎりゆきのらへるもとある  
ゆえよこぐりよとくろへ父のむねよあくがみてあらうもりよ。

第十三

一節

第七章 もぎあゆるせら夕のきへ小ゑそのきげせけんとあおむと父  
スウする。おんきごるとおりてあぐふのれあくなれ世さんよどるなまと  
あへもううとある。すむうんで又こよとめへ。あらくあるのむひ

かよーあやうとうぶんとあるをのりてそひのんぐむせこよどそひあくやう  
グそろふりれこり。そそへ父の方のくをのりてそれまよかくて  
かのきが能よりひゞく能うくるとをもりぬ。こくちを  
もよくあるとをあまそひあやうとねぎそくへざれをのりてあらそみびと  
がんゆりきてのりかーとからかてあらるとそろのあへざれみてこまと  
ねぐらぬ。そりんべてろよりなれべペてろグりなくさんじがかーと  
からかぬ。そそのりひぬとくじがそるとそろとりまさんぢあいだ  
のちこまとあるべ。ペてろグりなくのかくじがかーとからかぬへりう  
まごもるべ。そそのりひぬとくじれうんぢとひじたばんばうんぢじれ  
よりちせんもこけさ。そりんべてろグりなくかーのミヌあいだまも  
ゆくもかきり。そそのりひぬとくじれうんぢとひじたばんばうんぢじれ

よりちせんせりけす。せのんへてろくりとくわーのミヌカレバモ  
カレバモカカリ。エソのリハスルカレバセウガモルのちたぐモ

カレバモレーテカレバモアラモテタミカセテウカレバモレーテカレバ  
カレバモレーテエヌカレバ。ナニエソカのミトテウカレバナレモ  
カレバモレーテカレバ。

ナニモレーテカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ

ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ  
ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ

ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ  
ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ

ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ

ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ  
ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ

ヨレカレモカレバモカレバモヤウトキモカレバモヤウトキモ

それをうけたさへせひあり。ひがりかへるんぢゝのうへとゆがぎまく  
あらびひがきまくどもろのひのへひれこゑをもるき徳又ひれとと  
スもくちるひのかくとひげてこれとけるとひがくあらびあやう  
ことある。<sup>ナハ</sup> りあるのりまだうるさぎるうち。ひれさきるんぢゝホフゲる  
さぶさんぢゝヒグヒレとんじんぢべ。ひれきとぢうようんぢゝ  
スつげんひれはうをどもろのひのとうけキドをうべちまちこれと  
うけキドなるひれをうけキドなるひのへをきからひれとつうをひのと  
うけキドあるより。

二ナ一

ゑそこゑとりひときへくろゆうれひひがひそめふかしてりひひがひそ  
ひれきとぢうようんぢゝスつげんさんぢゝがうちへチ人シヒれとうらん  
とぞ。でーどもあひともスアソトこれとゆびざしてあうりかとうらん。

二ナ三

ゑそののひかるとぞうのでーへチ人シエそのむねよりはける

と。で、一ともあひとも又アモされとゆびざつてありとうづ。

エそののひあるところので、一チ人ンエそのむねよりはけると  
二十三

のり。せんべてろかまくやねきてりひ落ふところのむねとくをと  
二十四

とをく。ゆくかたエそのむねよりのへもひてりもくかまくこれ  
二十五

これぞや。エそのひ落ふくにれば、今だけといへてんぐをものべ  
二十六

こゑあり。あみをけといはてものんぐおまくよどみいあくとう。又  
二十七

あくべぬふ。それくいせとるのちさんかねがうちより。エそりひ  
二十八

落ふさんぢうねとくへをやくこれとさせよ。かかドくざくよざ  
二十九

あるのれどもさんじゆくこれとりひ落ふくるやとあらば。よどせくゆ  
三十

やくとづくせざ。どのひてエそかまくせう夕のこうようのものと  
三十一

かよとりひ落ふくるとそもくきづきのれよわざさせよと  
三十二

かゆすのれのり。よどせくいせとうけとせやくよりづる。ときあぐ

又教る。

りづくのちゑそのりひびきなくのまんじんがんのむらとさうりかやうきをミナ一もかきをのべてさうりかやうする。おへうきをのべてさうりか

やうきをミナ二おへうきをさうりかやうする。おへうきをのべてさうりかやうきをミナ三おへうきをさうりかやうする。おへうきをのべてさうりかやうして

おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきをミナ四おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきを

おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきをミナ五おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきを

おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきをミナ六おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきを

おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきをミナ七おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきを

おへうきをさうりかやうかきをさうりかやうさんとせ。おへうきを

あひともアツカセバミカさんぢトヨグで一くると。ものんへてろ  
三十六

りもくさんりゲニエウキアル。タソのりひはなくヨグレム。ミシロ  
小さんぢリモジモヒテモビトカヘモビのちクアラビコレヌトタグ。ペテロ  
グリモくタニニコレ今ハカムヌトタグ。トカヘモビトスルンダ。リのち  
キジムのタニニヨリスモスル。タソのりひはなくさんぢヨグタメ小  
リのちキセモタニラントモルヤ。コレキトボツ小さんぢスグレムハ  
タリカムのタニニヨリスル。ミタグ。ヨグレモモビド。

三十七

第十四章

一節

うんぢトグヒヌヒダラヒトヨクレ能モモドコレモモキ  
モニゼム。ヨグ父のりハヌモマヌガルハトモビンバモカホラヨレ  
フグ。コレゆきてヨンヂトグトアヌギトモラトモアシ。ハ一コレ  
ヨンヂトグトアヌギトモラトモアシ。ヨウバウモビタカムリテ  
ヨンヂトグトアヌギトモラトモアシ。ヨウバウモビタカムリテ

きへどりへむ。已アリグゆくとそろさんぢシテとあるを死マタキてこと無ナシと  
ある。とまきマツキグりたゞタツダツかみのあとのゆき残リすとそろとこれらもいだ  
りさんやそれミカシとや。又そのりひ残リすとこれらもいだりまシラすと  
ありりのちるチル。これより下シモのうんウンババをあそち父アツチ父アツチこれも  
き。さんぢシテこれアリとシテばまとシテ已アリグ父アツチとある。今よりのちさんぢシテ  
おれかくカクとあるまでおれかくカクとアドリ。

ひヤビヒヤビグりたゞタツダツかみ父アツチとめんそこれらアラもあせアセばされり。又その  
りひ残リすとこれらさんぢシテととめアメあるとかくのシテどくひきヒキさく  
ひヤビヒヤビさんぢシテありまシテこれアリばハ。これアリのハ父アツチとある  
さんアシを父アツチとめアメてこれアリよあせアセよとシテよ。これ父アツチよりまシテ父アツチ  
これよりまシテへさんぢシテさんシテせざゼザるや。これさんぢシテよりまシテ父アツチ

あきそりアキソリあふアフびりビリきキこれよりまシテの父アツチおれオレとシテかカあす。これアリ

されよりまたへうんぢるぜざるや。されうんぢナ一よりよのへかまく

みちそりかえのむだりまナ二これよりまたの父それよざとおこなふ。され  
父ふりまたされ父又りまたへうんぢナ三これとえんぜふあむだまナ四  
えむなちこぶかくさふふよそこれとえんぜナ五。されまたぞうふうん  
ぢナ六よづげんかうをこれとえんぢるのねをあくちこぐあるとくらの  
ゑをかきもとてこゑとせんとそれようかわひあるのれあらまナ七  
まくこれとせんとそれ父又ナ八くるとゆくそせなり。なんぢらナ九が名  
えきむたのむとくらあくべられくあくべこれをキナ十て父とむほとそ  
のうてさうりかぐやナ十一む。ゆくようんぢらナ十二が名ようてこのむと  
あくべかあくべこれとさく。

ナ五うんぢナ六よれとあくべがりまナ七めとあれよ。されあく父又  
えん父ナ八あくべがふようじきめねナ九とゆくてうんぢナ十ふたまナ十一

までもうんぢトとも小そんトモ。おうちチと死タたをせりんリうけべくシざるハかキをアべシあシざるゲこめアりハうんヂトカきをるカきとうんヂトトもハまミてスくまくうんヂトゲうちハそんとモ。ナコレクんヂトミすトびジくモそウびシれウうビうんぢトふつるナ。ひまあたくセけんまハコレシべシうんヂトコれシるニ。ひぐりきるとアみてクんヂトキりきるハ。かハ日クうんヂトモコレシ父のうちハりクえだトコぶうちハりトてシれクうんぢトがうちハあるエとモ。

ひがりきめトさくてシれをあるハおうちコレシへレコレシもあくシきをあハーカくシのきをカきシあらなま。いあうモうのかうりまーチ人のよどはヌそホりホそリとシくシきのきとコレシよ

のくなくてセんヌわくなくて移なくへシんヂや。そのりハ移なく

りまつち人のよどぬへゑそふりみてりまくおもひのきをこれとす

のふとてせんぬわくまくへほたゞへうんぢや。ゑそのりひあく

人これをあへせばかあくばひがエヒリとまからん。こり父もかあくば

ク風をめへーこれとさくらうてあらうをか風とともにすまさん。二ナ四これと

あへせざるのへひがエヒリとあくば。あらもさんぢとグさくくとこう

ののへこれより又あくばりまーこれとほうなほの父より。

二ナ五

二ナ六

されさんぢとも不ざるときそれとりあへぐさくらねーをあらち

聖詔。父こり名ぬようてほうさんとあるのへをとめろくの  
をとめうてさんぢとおきててさんぢとこそひがりよとみろと  
とぐくかがへりじめんと。されさんとめうてさんぢとよのこ二ナ七

聖詔。こりさんとめうてさんぢとよかんひがさんぢとよかん  
せけんのあくばるグどく。又あくばさんぢとグさくらひづとうき

二十九

かそるくとすれ。これもゆきてあらうそとまくらんとりふくさん  
ぢとそれとまくと。のへこれをのへせばもあらちこれ父よかなると  
りふくるへさんぢとくかふだそれとよろしう父これよりかわくると  
ゆふてすり。

三十一

ゆりまぐさくばもこれさきごふさんぢとよつけと。もくふさくば  
さんぢとさんぢと。このちかやきののをのへてこれさんぢとよりふだ  
けべーせんのまくとまくとてこれよかれてくることだ。ぐる  
くもふだせんとをこれ父をのへース父のりはけよもくだり  
てあらうもてかくとをくむ。りきつきてこれとをもゆく。

三十二

第十五章 一節 これきとのぶだうの木ヨグ父をくけつり。ヨグきどのちのく  
みとむほむだぐるのへかきこれをさらぬみとむほむのへこれを  
きよ

めそりふくみとむほむをく。りまさんぢとよとよとよのエモリ

三とむすめをさうるのへかきこれとさうらん三とむすめのへこれとさうる

めてりふく三とむすめをさうる。りまうんぢうじうごつよとみうのへこり  
とのそそざくわるのれおり。うんぢうじうごつよとれもうんぢう  
がさくよせん。のへそぞぶぢうの本よわづればそれ三とむすめを  
うんぢうじうもじうごつよわづればそれかくのじう。じれりまうじうの  
本うんぢうじうへゑだ。かうそじうごつよせりてあくうゑてかきぐさくよ  
せりのへをあたう三とむすめをじうじうへよりさらもあくるとまく  
うんぢうじうへとくわることかく。人じうごつよわづればうじうぞうげうなれ  
てかまうるげじうじうへとまをひうひてひようげてやうん。うんぢうじうごつよ  
ありじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじう  
うかくじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじう  
かぐやうぐるかくのじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじう

父ナニこれとあへむるグナニじくナニこれもきくナニぢうナニとのへーこうナニがあへ

あるナニとつねナニみせく。ナニんぢうナニよナニりまナニめをナニかぶナニさナニあたナニらナニび

のナニあるナニとナニはナニみせんナニこれ父ナニのりまナニめをナニかりナニてナニあうナニそナニれ

グナニあへナニあるナニとつねナニみせくナニるグナニじ。ナニこれ此ナニとナニんぢうナニみせナニげナニこう

のナニそナニこナニがナニうナニびナニなんナニぢうナニがナニうナニびナニうナニび

きんそくせん。

コナニグナニんナニぢうナニとあへーこうナニがナニじくナニんナニぢうナニもナニくナニわナニふナニともナニみナニかへナニせ

とナニれナニこナニぐナニりナニすナニめナニり。人ナニとナニものナニきナニみナニりナニのナニらナニとナニあナニるナニへナニこれナニよ

かナニあナニるナニあナニるナニのナニをナニとナニす。ナニんぢうナニよナニかナニをナニりナニひナニつナニるナニとナニそナニとナニせナニび

をナニあナニちナニよナニぎナニきナニなナニり。りナニまナニよナニのナニらナニこナニれナニんナニぢうナニとナニもナニかナニとナニと

とナニあナニだナニもナニかナニとナニねナニのナニをナニとナニうナニとナニあナニざナニるナニよナニうナニてナニこナニれナニきナニんナニぢうナニ

ぢうナニとナニとナニあナニこナニぎナニ父ナニよりナニきナニくナニきナニうナニのナニひナニとナニぐナニくナニきナニんナニぢうナニ

とかなんばるもかとこねーのちるともうとあふざるようてぐれさん

だよとともととあかよげ父よりまくともうのゆへとぐくさんぢ十六  
よゑ十七一めくるようてあり。さんぢ十八よれをゑびくるふわんば  
り十九これゑんぢらをゑびてたそくうゆべてひづくミ二十むけをなは  
えうゑて三つね二十一よぞんぢ二十二あらち二十三よぶ名二十四ようてたのんであるす  
父小の二十五とおぶ二十六おれ二十七おれ二十八さんぢ二十九ふかく

されこれをうそえんぢ三〇かりひづるえんぢ三一とえながひ小の三二せ  
せ。せんえんぢ三三とふくわんぢ三四かき三五これをえんぢ三六小さき三七ざう  
てあくさく三八るとある。えんぢ三九せんようの四十のれ四一よぶせん四二あらち  
かのき四三ふぞく四四のとおひ四五を四五えんぢ四六せん四七ようの四八のれ四九よぶ  
せり五十せんの五一うち五一えんぢ五一を五一えび五一るふう五一てせん  
えんぢ五一とみくせ。エグ五一りふゆるもかとこねーようゆあひ五一よぶとの

エ恋をかがへりだせよ。人これもあまりかふすとくかふばさんぢと  
あまりかさん。己ぐエ恋とまくじぶきとんぢうがエ恋とまくじん。二ナ一  
人こび名ふよろてのろく二ナニエとなんぢう又くさんコレをつるを  
のとちよざるふよろてあり。ゆく二ナ三コレりまざまざうてこれをかまえ  
せんばそれ人はまゆく二ナ四きりまそれつまエとけりゆとまば。コレと  
ゆくむのへまく己ぐ父とゆくむ。コレゆく二ナ五のろく二ナ六ゲまへよやうて人  
りまざよくかとあがざるゑひざとかとあがざり二ナ七これとも父ともまくじんてまくみくむ。かくのじく  
ゑくわう小人ゆくまくをこまをみくむとのうをあるものエス  
かうぞく。

己ぐつうたさんとまるのうじまのねーをまなうまとのこゑーの父より

りののれまでよきくさぶくかくじぶきとまやうこせん。さん  
二ナ七

ひがみのわせをでよまくいだうあらうひがくらよあらうせん。おん

だともきくあらうせんとおんぢりおどりよりひきとともよゑる  
ようてあり。

## 第十六章

一節

**正**これ云ふことをおんぢりよびて見ゆくまるとおおらむ。  
人をとおんぢりとよりあひをよりかひりぞしてちくとまけきくうて  
おんぢりとこうそとのへこれをのうて能よつゝきりせんとおあふ。  
かれじこゑとおとおみへ父とこゑととおぶるゆくより。これをお  
められておんぢりおほげるときのさくいだよがりひくるとかやへず。おど  
めようなんぢりおほげるときのさくいだよがりひくるとかやへず。おど  
り。五これおとこれとつうをきの代子かぶんとせ。なんぢりも  
六おまとりがくまゆくと見るの代子す。さざれは工とおんぢりお

りふにようてさんぢんぐさもうれみちたり。あれどもこゝをあらと

のうてさんぢんぐさつげるこがゆきさるはさんぢんぐさつげりあり

八

これゆくばんばなぐさわへさくらばゆけばさくらかまをほづき

とも。かきりたゞづきをのへてざをのへてたゞそとめりてせんと

九

りまめせん。ほづきをのへてようてせんこれとさんせんびさをのへてよふてされ

父えうるさんぢんぐさつげりとくまをだ。さくらとめりてようてせんの

さんたゞぐる。

これうるさんぢんぐのそーさんぢんぐさつげるとありさぐ今さんぢんぐそれを

あらびとあらべ。たゞかのそこのたましるきさんぢんぐをさんぢんぐとみち

びきて三かきのところへまくまくひくまくづくりかまくひくまく

うにもさくくさんぢんぐのものとめりてこれとりひきさんぢんぐのとめりてさんぢん

さんぢんぐふゑあさんとぞ。かきりあらびこがわるさんぢんぐとめりてさんぢん

十四

十五

ひきてまかまことのとどくへまみてまくまへまくまへまくまへまくま

えんぢよふあやまんとぞ。かきくみよびこがわるとどくとめにてえんぢよ  
ふあやまのとぞ。こまをかぐやまんとぞ。<sup>十四</sup> めろく父のあるとどくへこが  
のれうりゆ多ヌ。こがわるとどくとめにてえんぢよふあやまんとぞと  
りみく。

えんぢよふあやまんとぞ。かきくみよびこがわるとどくとめにてえんぢよ  
ふあやまのとぞ。こまをかぐやまんとぞ。<sup>十五</sup> めろく父のあるとどくへこが  
のれうりゆ多ヌ。こがわるとどくとめにてえんぢよふあやまんとぞと  
りみく。

<sup>十六</sup> えんぢよふあやまく。ふあそえんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
ふれを元る。父えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
のれうりゆ多ヌ。えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよふれを元る  
えんぢよふれ父えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
えんぢよふれ父えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
えんぢよふれ父えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
えんぢよふれ父えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ  
えんぢよふれ父えんぢよふれを元ばきくあやまくふあそえんぢよ

これと見るよりひもるとさんぢのひともかみや。されまことおふく  
さんぢのふづげんさんぢのひもさきてくほんとせけんへようどぶさん  
ぢのひもうまさんとそくざさんぢのひがうまひようどがえぐる。かんゑへ  
さんのかきのうちうまひありそれとききくるとゆりており子と  
うまれてのちそのくらいをちかがくばせけんよりちんしうまれて  
とようどぶゆへり。かくのじくさんぢのひもうまひありたゞこれさん  
ぢのひもうまひをうなちさんぢのひがうまひようどがうんぢのひ  
へこれもこれとうなみとす。

かの日さんぢのひもとあるところす。されまことおふくさんぢ  
ふづげんじの名はよろて父とおもひとおが父とおもひさんぢのひ  
あくさん。今おぐのとあるところへりまごじの名はよだりまのとお

まおうちあるかくてさんぢのひがうまひさん。おとたとくとおとめと

めさん。今まだのどるところへりまだコグ名又よだりまのどらよ  
二十九

おおむちうゑるかくとえんぢとげよろとびみさん。二十九おとたとへとをとゆ  
てばふとさんぢとげほぐるほどときせたりてこれまたとへとをと  
めつてりもだりま二十九あじかた父とさんぢとげあせんとぞ。かげのさん  
ぢとまくみこぐ名又よろてめとせんとぞ。コグさんぢとげかくりて父  
よりの二十七ハコレそれとひが。けづ二十八父ミゲトさんぢとめとせん  
ぢとコレとめへてかうコレ能よりひがるとおじくるとめへてきり。  
され父よりひがせさん又まくつこうスせさんとおじくと父又  
くふらんとぞ。

で二十九しものひくくひくあくへあくとくくうてたとへとをとのくとくを  
めうだ。りゆこれからのかくとみがきりて人のあくとくこととのく  
ざるとあるこれをのそこれかのくあく能よりひがるとあんぜん。又その

りひきとくひまさんぢとそんぢる。かとうかときさくらんとをりま  
キでよさくるさんぢとちりさしてかくへかのせぐとこうかかりて  
これとひどりのそーかくゑるをどもこれひどりどる。エカビ父兄と  
とも小走る。四時止むとゆふてさんぢとみづてさんぢとこれと  
ゆふてやまえせんとやう。せけんよあらてさんぢとうまゐるやうあり  
あれともそろよきあれよ已れもざね世けんよかつ。一

## 第七章

節

ゑそりひとそりて月とあげて天とあかぎりひ落とく父兄とまきの  
りくうこりねがたくハのまへれひまきとさうりかぢやうせよゆひてゆまき  
もまくあまくとかぢやうせん。あまくあまくとこれよりまきとたまへて方  
まんとほくさざくしてこれうぎりうさりのちとめろくのあくこれ  
あなみとまのくとまのくとわんとわんとわんとわんとわんとわんと  
わんとわんとわんとわんとわんとわんとわんとわんとわんとわんとわんと

のをほんとうにされへどもさういふとめろくのかとされ  
のをほんとうの人よめんとやうあるときりよーあへよ。かぎりうき

りのちへのあひとりまと猪さうりあそぶれをとああはれつらを  
くるのとあるへより。<sup>四</sup>これせけんふぢのあひとかぐやうしてのあひ  
正れよみせよとさばけくる。こざへこまをぞにこれをすゝり。父い  
今こまとああくねのまとゆつてとああちせけんとくさる。また正れ  
のあくとあくとさくのさくやとゆつてかぐやうせよ。

<sup>大</sup>ああくせけんよつされふとあへくる人ふこれのあくの名とねらへり。う  
あじくよのあくとれんとる。ああくかまよと正れよめんへうりかれどもあく  
ああくのこむりとまのりてああく正れにあくへくるへまかあくとよ  
あるとあり。うり。ああく正れよさばける。さううのこむりへこまかれど  
ふさばけてかれどもこれどうけとまくよ。こまあくよつりびくるとあり  
<sup>八</sup>九  
てかうのあく正れとづくへくるとあんじう。正れかまうげたぬよ

りの。せけんのたらよりのるよひだりきナのまへこれふのたへくるものく  
なれふをかまナのあくふぞくあるとめへてなり。ねうそこれふぞくを  
のへあまナふぞくもあまナにぞくもののへこれふぞくもかくこれ  
かまナとめへてかぐやかさる。

今よりのちこれ世ナニをふぞくナこまナせさんふぞくナあらうナをこれ  
あまナにくる。ひまがりうる父ナニひまナこれにひまナふるナまろのナ人ナと  
ひまナく名ナニかよそナあらナてひまナふぞくナひて父ナニとこれナあら  
グナふぞくナふナせよ。これうなせけんふのナてかまナととあまナするとき  
これかまナととあらナてひまナの名ナニとそんぜナめこうナひまナこれふ  
ひまナあるナまろのナののへこれナふぞくナかれナとナあらナあり やうぶの  
むナとおうえへりちんナもうああたゞナうそそ徑ナるナうそそ

うり。ひまナこれあまナふくる。うなせけんふぞくナをきナはるナをりそ

むふるどもものめのへ正れもぞ不かれりとたがひあらんすよの  
む出とてわらえへりちんもうちあただもうを往るゝ所より

さうり。ひなこれのまくふくる。まかせけんふどるときはゆをひきて  
かまうりぐそろとこぐようとがとのみてまそらむ。正れのまくれ工なり  
とかまうりふさびけよりせせんへくれとふくむよろてかまらせけん  
よりぬざるとこれせけんよりのらざるげじ。正れのまくかれりとせ  
さんようをまかせよとのとあるかみうぢゆき。正れのまくとたかちてゆく  
ふうちりぬざるめよ。正れのせけんよりぬざるとこぐせけんより  
ぬざるがじ。猫がなく入ぬまへれまことのみてかまうとまてひあり  
とまきめぬぬあとの工口やとせあたらまとうり。

あかくわれをせけんふつうをへるごく正れもまくかまうとせけんふ  
つうを。正れのまくうりぐくめぬかのまことひありとまくめくとてかれりも  
まくとめくとてひありとまく。正れこれうりぐくめのまゆるにゆくば

りまへ まへ くまへ グ と な と ゆ て こ れ を あんぜん と あ る の れ と あ え  
そ の ら て で 一 み か ひ と ふ よ さ り て そ あ な ち 父 に が う く 小 こ れ 父 の  
う く す む る ゲ じ く か ま し も ま へ こ れ じ グ ま く す ひ ま く す ま べ か く  
の じ く せ け ん の あ く こ れ と つ う な は と そ ん ぎ す。 わ あ く こ れ す あ く あ  
さ ま う く へ こ れ そ れ と か ま し ゆ あ く て み か ひ と ふ よ さ り て 父 と こ れ と  
そ う じ め ん と あ う そ。 こ れ く ま し ら え あ り て の あ く こ れ す あ り て ゆ う く  
そ そ ひ い ど う す あ く そ う く ま 人 と う じ め ん を あ な ち せ け ん の あ く  
こ れ そ つ ま く て か ま び と も の あ る と こ れ そ の あ く あ る ゲ じ く あ る と  
あ る べ 。

(二十九)

父 の 猫 が た く へ ぬ あ く こ れ す あ な ち の 人 こ れ と そ そ ろ と そ そ は て  
あ あ く こ れ す あ く へ ぐ る の さ ま う く と あ せ し め ま け ど せ な し う く の

さ ま き の あ く へ ま ぐ す ま れ そ の べ 一 こ り。 ざ ま お る 父 の 世 け ん の あ く そ  
(二十九)

父の名がなく、それで誰もおなじる人の正れとまこととまほて  
ああへこれよあへてさうのさうりとさせしめうけぐせなんひらぐの

さきのあへまごよまれをあへへへ。ぎぞある父の世せんのあへと  
あへばへざれあへとあるこれともきこのあへこれとほうをへくると  
ある。二十六これよざよのあへの名をめうてかまへふあへてまうをそ  
まへこまへとあらそめうてあへとの正れをあへあるのさくかまへふ  
かまへばれもまへかまへグさくよどるべ。

第十八章

一節

えそのりへとめりてでーとともアリヅケドろんさまどこくり  
ほひそくありてでーとともよこれよりほふ。ああやうをうるの  
よざよ三きとそれとそろとめりてようてえそでーとともよゑくそく  
ぬうきる。よざよ四えのほそめれかよびきりつまのくらふこまを  
ぎものやくふんとひまそとひまくとまへへびとわくやりとめうて  
りたる。えそめうくのめんことをめりてりびめりてとみてり

あく これと いふ や。 りんく えざれ の 人 えそと。 えそ の りん  
あく され そり。 ああやう と うる の よび も めろく と とも す

す。 えそ えれ そり とりバ あそち めろく ありぞき て は  
くど。 えそ そく と ひて りん あそく えんぢよグ たがねる へ これ そ や  
り な ぎれ の 人 えそ。 えそ の りん あそく ま ど え えんぢよ え  
れ そり と ひく そり。 わ えれ と い ふ ね ば い の そり の われ と ゆる へ て  
さらせ よ。 かく の じく えそ の わそ そり の あく えわ そる の 人

これ そう あ あ そと そり と ひく あそく へ せう ど そり。 そ ウ ん べ て ろ  
の ち そる あそく と ね き か か お く は う さ せ えも か と そ う か ま が  
ま が う の ま く と く ち ま く えも か と そ え な へ ま れ こ う う。 えそ へ べ て う

えり そり ひ あく えん ぢ が く な か と さ や え い き よ 父 えれ う  
ゆく か る の は が の え の ま が う ん や。

ナニ  
ゆく か る の は が の え の ま が う ん や。

よりきてりひ 痴たゞく おんぢがくをかと さやよりきよ 父已れ

ゆくの後がおよのまざらんや。

ときまよみのつそめれりくらよしづものやくみんゑそとくふらそ

これとあなりてひきてまびあんゑそをあそちかくまくりつうきくやふた

ゲをうとゆゆくむ。むくへよしもよつちんしたまくをりて

あらへコレトユシタリヒルトロソのべあきらかくやふたすり。ゑそ

えあこびゆくのべせのんへてろぐわくづのでしめりてめどり

かくちくりつうくよるの代ゑそとまよみかくちくりたうせみやよ

り。さぐへてろへかどのかくえくうかせかくまくりつうくよるので

しりぞくのんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

うちてあらうをてゆくむへてろかあぐくらひてゆくむ。

十九 わかまうりつまでーとかまへと片工をめうてゑそ又と。ゑそその

こゑてりひあらくされせりんゆあらよりひくりされつねより

ゆひやとてらとよどもはゆえあらあるとらゆおまへてひそくえき

もりをばくり。されそれをされゆさふやされとさくのれゆえよかきよ

ひぐりとさうとある。りひあらゆひどくべからゆさうのやくゑん二十三 うらゆてゑそとくまそりあくゑんぢかねまくらりつまくまくら

かくれじくあるや。ゑそのりひあらくひぐりゆとゆきとまへそれ

ゆきとあやうこせつよきとまへるんをこれとうくんや。

二十四 エそゆざみゑゑたれてゐんゑそこれをゆかまうりつまくやふれゆ

よな。とまえまゆんぺでろこうてゆくむ。ゐる人これゆくうりてりあく

二十六 むんぢきとば人のでーゆのひだや。これうけだんでそあひだとりよ。

多そおひよを忘れておんぬをこれをおなきつまうやふれ  
止な。ときよせんべろううてゆく。ある人これようりてりとく

二ナ五

きんぢきへ人のでしよあいだや。それうねだいをあいだとりよ。  
二ナ六  
かねきほりつうされもかどとありておおむらかはへてろよみくされ  
のくきんぞくりとくこれのゆかそきんぢかきとともに小ちるとゑくる  
小ちいだや。へてろきへうねだい。ふそとりをあおちうきよ。

二ナ七

二ナ八

おやゆきのうくゑそせひきてくやふえよりせへるゆりうるのうく  
せへるゆりうだけがらきてあうゑそせぎそのかくとくらふとく  
きぐるをあそる。びらとりぞくかきとゆりふてりとくきんぢよさにとの  
てせんとうふとくや。そくてりとくかれとくわんよわいばんばれり  
おあおちかきをきんぢよじいだ。びらとグりとくきんぢよこれとく  
てきんぢよゲやうかうのとくとくこれとくせよ。よくざまのりをく  
これよひざとさだめることをくだ。そくとゆくてゑそせくへきだ

走るをゆうておせんと走るとなりひきのくるふせうドモリ。

ミナミ

びらとつあみそながせへふかきんでゑそとよがてりとくさんぢ

ミナミ

よこぎものましくゑそのりひひきとくさんぢいとをりひへあきより

ミナミ

くをもくへこひ言となりてさんぢよつげくるや。びらとグリとく

ミナミ

されよあんぢ。さんぢねのきぐたまときはりつうさのくらどもとく

ミナミ

だとされかきくへり。さんぢもくへてうにをきるや。ゑそのりひ

ミナミ

ひきとくひくまはせけんよりかのひひこひふと兵世けんよりひ

ミナミ

ひが飛下くかくびひひまくくみてひれをもそよあぎもスコヘ

ミナミ

めひれだりまくひひまくより兵せば。びらとがりとくひくひをあわら

ミナミ

さんぢようぢ。ひひまくさんぢひれをもとりひされ兵ゆへふうあれて  
兵ゆへさせけんよんだりてきとのくらみやうこせんとひらむねひを

きとよりのひれひとせとまくあり。びらとがりとくひとへがん

あれや小せん又せりてきとのこちよあやうこせんとからせぬを

きとよりのわれよぐこそとまくより。ピラとグリとくきとへがん

ぞや。りぐとそりてまくりくよくともよりなくび人のわやまらと見え。

ミナ九

さざをぎとゆるせうよろんぢとふあうぞくわりへんりのせらなれと

四ナ

ゆるせうよろんぢとゆるせんとからある。ミカ

よみくりてのちくは人のひだらをらをと。それ右左へかひをぎる。

一節

第十九章

ピラとつあえゑそととりてこれをむらう。此へのれどもうたら

=

ゆそかぢとくそとかがだにくぢしてむらをとらもとさせてひたく

四

よこどものようひのんか。おどよみてあらうみてまみてこれをう。

五

ひらとまくりぞくゆくくよりかてりんくとくかばんとろんぢと

四

ゲキとよりぞくとれくまくわやまちとあがるとろんぢとよろんぢ。

五

ゑそうちらのかぢとくぢとゆくまくとらもとまてありてりぐ。ピラと

六  
グのろくよりきてりとくきびぬ人と云ふ。ちりつまむからと  
やくわんざもとこれを云てよをくりてりとくこれをもうのんどふそり  
つけせうおうのんどふそりつけせう。ピラとがりとくさんぢとこれを  
とりておうつけせよこれかきぐわやまらと云ふ。よひどもそそくてりとく  
まれうみかきてありかきかのまと猪のむすととひふるふようて  
これうげゆきてのをあり云ざんとうけるべ。

八  
ピラと云ふとそとみてりとくかる。ゑとびせふふとぞとゑそ  
みりみてりとくさんぢりばくよりぞや。ゑそこゑへゑとば。ピラとが  
りとくさんぢ云れえこゑざるや。ゑ云れさんぢとおりつくるのりきわ  
あくさんぢとゆるモのりきわゐあるとゑとば。ゑそのりひゑとくう  
よりうんぢえこゑするゑわくばんばさんぢとあそばう云れえのうある

のりきわひなへゆく云れとさんぢと云へぬのくつりとくかわひ  
ゆつ。二五 ようづつぱんじとくめふたとく上りつもしづもよく  
よく

まさんぢとゆるものりきわひのるをもはや。又そのりひ残るく  
よりさんぢ又とまなるよめびんばさんぢとおなうされよめりうある。

のりきわひかへゆふこれとさんぢにこゝれのくづりくちあひ  
さり。これよりのちぱらとこれとゆるさんとかつそれどもよしとどもよしと  
てりとくちうをゆのとてとてとてののへくへきせふそおくさんぢ代人  
とゆるさびとあたうちへさとのともよめびだ。ぱらと云れどときてときてと  
とてびざくひだ』と名づけぞべらひエ志ヌウをとと  
とくうよくらあみざむ。十四とくうよせきことあるせらのをもへ日さくびひる  
も。ぱらとへよしとおもよりかぞりとくちうをびさんぢとげとと  
のうくよきくとりとくこれとさくせよこれとさくせよさくせうのん十五  
よありつけせよ。ぱらとびりとくられさんぢとグコうとをりつるや。  
きくりつるまくわくらざむとくとくとくへさとのおうじれとよすく。十六  
つあえゑそとなりてこれをくまうよおつめらるよこゝれかまうこれを

ひきとさる。

ゑそをうち わんドのちりとみあひそ のくものさられ ともろ べらり  
エをみごととりあそぼうよりくり あふ。かく こえこれをおうち わんド  
おりつて二人 ンともほてひとりとみぎり ひきりとひだり ゑそ  
とあくみあくり。ピラとグリそれ がきーて おうち わんドのちり みすそ  
りあく よく きものむう えざれの えそ。かわくの よく ども せりそれと  
よかよかて えそを おりつけどの みそろ あら みちく それりそれへき  
べらり へせねろ なめドみて うきとさる あり。きり つろきれ くら ども  
べらと みりそりあく よく きもの みそと かく と あれの きと よ  
きもの みそと ひきりと みそ。ピラとグリあく うきくる へせねろ なめ  
くきとさる。

クをへり。

ほその代二十三をもあざニエとトそトとトありトそトの代トかトのさトれトとトりトてトうちトざトねトもトきトくトるト。それ  
はトうトうトうちトざトねトひトりトくトそトうト人トもトあトざトそトりトてトりトくトこトれトとトさトくトるト。そトの代トもトあトい  
くトうトりトてトりトくトこトれトとトさトくトるト。それトの代トもトあトい  
きトるトやトアトんト。運トえトかトもトうトよトびトうトげトぬトとトよトくトちトいトうトらトうトりトうトぎトるトゆトよトつトそトの代トもトあトいトきトるト。そトの  
母トおトもトうトがト母トのトあトさトやトうトざトいトけトそトうトをトぐトつトまトまトやトまトや  
まトれトねトそトのトおトうトのトんトトトよトちトくトもトくト。そトそト母トとトストかトれトかトのトきトが  
めトートあトふトのトでトートちトくトくトとトえトそトもトあトちト母トよトかトんトまトんトざトいトむトそトとトりトいトいト。そトそトそトうトかトでトートこトれトをトあトれトがトりトくトよトうトけトきトだトそトりトくト。

二九  
このちゑそゆうくのとをぐふるとあうてこれかくくとりへ  
あふあうそく連ヌとトドき。かくこふそゆるのうべゆけあり  
人をとめみて三ミ三ミとごくみておれこばちさうのうへよおげて  
あれかくのうちにつくや。ゑそをとうけそぞろくとりひあふ。  
かくだとうらがてりきくえあひけりとろん。

三十一

三十二  
とまゆりまくそきへせらタよへどもへりとす日又かそくゑねをうのん  
ドモりゆく。エとやうせばかれりとす日かわる。とめうてゆく  
ぱらとゆめとめそれをねときりてくゑねをさらめふと。つそおれ  
をもきくりてあくドくもりつするのくどいへざいニそれをねときり。  
ゑそゆりくりてそれそぞくみしらぬへざいとぞそれをねときり。  
さうひとりのはそのれをとめうておれかくのひきとさくとあら

三十三

三十四  
血とミヅとともにゆりゆる。ゑるゆのへあうこゆかほりえやうそへきと  
あづらうつへ正ちにゆる。あうとゆしづりとちしづり。三十六  
三十五

三十九

ゑそよりてそれぞくゑそーほれをとておねを  
さぐひとりの生その代をめくとおれちの口きとさんまわら

三十五

血とミグともよりがる。そるのべあやうこモカシグあやうそくちと  
アズトリフとまとうとありてさんぢとえんぜむか。これとより  
て速ヌウタカクのひとかゆせらまびとりふべどうドヒリ。まくべ  
往ヌリクカキシカの生トグされどものものとあくへさんとせ。

三十六

三十八  
それのちあさまへの人よせふゆとくりゑそで一ぐじよくざもと  
あそくよろてひそくあらうじらと小ゆとめてゑそのかなねとさん  
とせびらとこゑをゆる。つあえまくりてゑそのかなねとせ。ま  
ニニでもモドめて初るのあひだゑそよつきくるのれゆつてのくやく  
とろくにとまけるまへぐ百さんとめらまくる。四十一  
ゑねととりてよくどものやうあるあうぞくよあくぶみてのんと  
ゆてみやみくらりみてこれをほく。おれちのそりはけらるのきどろ

三十七

三十八

三十九

とくのちあさまへの人よせふゆとくりゑそで一ぐじよくざもと  
あそくよろてひそくあらうじらと小ゆとめてゑそのかなねとさん  
とせびらとこゑをゆる。つあえまくりてゑそのかなねとせ。ま

ニニでもモドめて初るのあひだゑそよつきくるのれゆつてのくやく

三十九

とろくにとまけるまへぐ百さんとめらまくる。四十一  
ゑねととりてよくどものやうあるあうぞくよあくぶみてのんと

四十二

ゆてみやみくらりみてこれをほく。おれちのそりはけらるのきどろ

又そ氏のりそのくさくみのへりきつるありひまざんへかうむぐるをも。四十三  
そ氏の日よごどものそあくせら夕まくはうのちくくさるよよてく  
こえそとわうむりく。

第二十章

一節

七自ミのアドメの日ちやめきりまざるわねざるときまでや  
まざれねつろみきくりてりーのつろみうみせざるとアソつるみりーヤて  
モウんぺてろとかせづのゑそのゆきるのでーとよりみてりとく人  
ねーのクをねをほりよりきりびくよかくやとコレトモだ。ペてろ  
とかせづのでーとゆきそつろみわく。あくううがこゝ。かせづ  
のでーべてろよりキヘヌヨリてさきつろみりだ。かみだとこれてのく  
ねぐわきくらをアソてりだ。モウんぺてろもくづきくりてはうみりりて  
のくらねくねきくらをアソ。かうべとほくむのさきへのくらねのとゆきづう

せびりまきそづうのそくよおきく。つるみかせさきつろ小

やくちきとをもせり。せりんへておもふきこりてはうえりて  
のやんねくやきへるをやる。かうべとほむのさきへのやんねのとあらう

せびりまきとまくべうのとこうよゆきとり。つあみかれさきつろ小  
りするのでーもきたりてゑそあらうゑてあんぞ。<sup>ナ</sup>けいべーでーども  
まめりまざゑそのひかるちりくあいだりきくるの徑ナとあらう。でー  
どもつあみくべゆくる。

まややへづのわくえナらちてあく。あくまきかがとされてはのうち  
とのぞみてナあづりの天のつろひあうきりあくゑそとのわうナそれ  
するをきろみひとりへかかだみひとりへわくえざむるとゑる。あくう  
りあくおんえきんをあくや。ひたく人のこぐねナととりてりぐく小  
くやとあらう。りくどもりてゑとうづら小めぐじてゑそとのとろと  
ゑそあらうゑそれゑそくらゑとあらう。ゑそりくらくらんゑ  
えんゑあくや。まややそれつうりとあらひてこれよりきてりたくのナせん

せいか是をみかひさりとくべりげくよかきくるやとこれ又つげ  
されまわらちこれをそらんとモ。又そのりひあらまく十六まや。おんうへ  
とめぐらてりなくらぶふをあらちま十七すより。又そのりひあらまく  
されりまだ父十九よつきてのわらびこれとおどるとおきりましゆきそにぶ  
きやうざい小づげてこれのやりて已十九グ父二十をあらうんぢ二十り二十グ父二十已二十グ  
能二十をあらうんぢ二十り二十グ能二十小つくとりへよ。またやまざれねゆきて  
父二十づくね二十そと見えぬかくれおのき小ひほひくることをも  
りそで二十小づげく。

かうド日十九をあらう七日二十三の小ドめ日二十をぐふくれて二十一二十もよ  
どもとむそれであらきりどるどろ小ゆん二十とゆるとき二十そきそりて  
きくよ二十てりひあらまくうんぢ二十へゆん二十れよ。りひほひとまも

ききもあまう小元せほひて二十一二十もよ二十と見えま二十あらうよ二十ぶ。

おもむからでりひあらんくさんぢとへんされよ。ひあらんともまも

己きもあはれとふせせびへてとーどもねーとアそをあらちようとぶ。

二十一 そそきひあらんくさんぢとへんされよ。己れさんぢとつうをも

と父の己れをほうをへるグジ。ひそたりてくまとよむけて

ひまとふきつせりひあらんく聖詔とうけよ。さんぢとひぎくはまを  
二十二 ゆめさばうあらだゆるさるひぎくはまとさばばくあらださばばく。

二十三 十二のとーのうちとまもとりよへちんゑそのあらるをき

ともすそびと。そばのとーどもかはりよりあらくされと  
二十五 ねーとえどり。ひなく己れのそばのあらのまうちのくさばとアそ

ゆびとそばくさばよりれまとのくとそばにかへりとせんば

己れをせだ。ハチ日チニとーどもそくうちよどるとまも

ともすそび。ひんまとよどぐゑそそくとておもむからそり

ともすそび。ひんまとよどぐゑそそくとておもむからそり

あんぢるがへんうれよ。つるえとまをよりかてひあんくさん  
ぢぐゆびとそふさりかくゑしてひがまとざれよあんぢぐまと  
こくえのびかくゑしてひがまをよかりれよあんぜざるめれとあると  
ううきミナさざあんぢるめれの三。とまをそくへてりあくひがねミナうかひがねミナひが  
うか。とそのひがねあくとまをいあんぢられと見るようてあんミナド  
うり。ひだともあくあんミナドするひのへさるをひめり。

ゑそで一どものゆくせんよありてづうよかわくのてんミナドへとと  
ねこゑみぬひてはまよかくよかざれくるひの。くぐくきくるわと  
かんぢらとあてゑそ能のむほとくられもとくる。とあんぜざくらむ  
あんぢそよあんぢそれ名よからてりのちとあるべ。

第三十一章

一節

でーにあらそくあひてそれあらわれとかくのじ。そめんべてろ

第三十一章

一節

そ此のちてベモやの久々元ニありて、タモアハジカの身を  
えんをあがむらそ此名ニ有リて、のちと見るア

でーにあらかじめみてそ此あふれるとかくのじ。そめんべてろ  
とでぐもとかみのとぬとゲヤクのうかんがああゑとづべどへぐ  
ふきりむほとづくニ人ンのでーとおあぐくあり。そめんべてろグ  
りまくされうとくとらんとゆくミガリをくふれトモヌメえん。つるヌ  
りぞぐあねヌのギリてそ此初へくるとさろ。四  
ちあヌトウラテでーどもへそ此ゑそくるとあらば。五  
己が子がもく三の代あるくりかくす。りひあたくのまとあねのミギリ  
にうそべあるべ。うちてをあがむらおまとのげるとのくもだうとあわる  
ゆき。

か哉タその身へあるでーへべてろヌエヌ一よりとひよ。べてろをだら  
はてこれねーうりとせぐそ此名らうとくさづぎねとづねうみえとび

んだる。それのよりへて必ず又のりうとくはくむのゆゑひれてくる  
けぞりちよりをきれるととあくわづかへぐニ百ゑやく。ちろよ  
のやりてのちとのゆゑきみのうへようをゐると云る。又そのりひ  
ひきをくひまさきどるのうとくのらまされよ。そのんへてろがゆきて  
ゆゑをちうのうへひきのやへておあひるうをのるくぞるニ百ゑ  
十三。うとくわきとりへぎもゆゑさせば。又そのりひひきをくきくつ  
くらへよ。で一びもへぬひてあるとされぞやととめせす。けぞりそれ  
ねへる」とである。又そきなりてのちととりてかほらゆゑくへひき  
うをちまきかくのど。又そひへひきよりひきくへてで一び  
ひからざれるへてきどふ三どあり。

十五  
ちほとゆいえきんだひされとおへかるへてきどよりきるや。りんく

十五  
ほしむるへとまふ云とす

あくそぞりてゑそへゆのんぺてろよりみてひきかくよみグ

ゆゑとゆのんがんぢ正れをゆへまるへとまつようまさらや。りんく  
あうりきみべこれあくへをゆへまる工とあり候ふ。ひくらなく正が小  
ひくらとやあきへよ。ちへでへニどりひきかくよみグゆゑとゆのん  
うんぢ正れをゆへまる。ひたくあうりきみべ正があくへをゆへまる工と  
あうり候ふりたく正がひくらとやあきへよ。ちへでへニたびひきかく  
よみグゆゑとゆのんがんぢ正れをゆへまる。ペてろそれニび正れを  
ゆへまるやとひきかくようれひてりたくあまとミカアリて正れ  
ああくとわへまる工とあり候ふ。ゑそのりひきかく正がひくらとや  
えよ。正れまことおもよみんぢにづげんみんぢ正れをときみえづくらかび  
とはうねてかうめりあくがひてあうもてゆきくうかくするよかび  
てうんぢきさえまとのがそ人よつうねらまそゆくんとわくせざるをう

えひうれてりくさんとせ。それとりひ落ふへてろうんのひをもとめら  
て猪とさうりかやうさんとあるとゆびざれ。ゑそきりひ落ふく  
されえもとぐよ。

べてろゑとめぐらてかせゑそのむへり落ふでしもとぐよとどる  
まみうちむんあくくあるときゑそのむへりよりつきてまみのむなを  
うらんとあるゆけなれぞやまゆゆけあり。べてろそれをゑそゑそ  
まひてりなくさまぐんをりくん。ゑそのりひ落ふくられめいけん  
けいがさくるまでとまりきふとをやせうさんぢにうんのむぐくると  
あぐん。さんぢたぐされえもとぐよ。とくよりきやうどいのうちば言  
ひひうまりてかせてしゑせざくんとあとあうきぶもゑそくまくが記  
せざくんとまことひ落ふくるえもとぐよだされめいけんこくがきくる

までもとめくとをやせうさんぢにうんのむぐくるとあぐんとのま。

せがんとまとりひきひくるみあらさざれのいはんこぶさくる

きでさぐまりきらとをりせばさんぢにきんのゆびるとあんとの。 二十九

それをもやうこそそもやうもそそれとくきもるほのへをももうちかれて 三十

しより。かうこれとそれもやうこそそとなるとある。そきぶふよゑその 三十一

かわくのかこみひきひともわりりちくこれをうけべよがおのふよそそ 三十二

くくべきもよりうせけんぬのむるにこえぞ。あめん。

約翰傳福音書終

卷之三十一

第二十一章

六十五

1002717765





